

# **MetroSelect<sup>®</sup>**

---

シングルラインスキャナ

設定ガイド



## 免責条項

Honeywell International Inc. (HII) は本書に記載されている仕様およびその他情報を予告無く変更する権利を有し、読者はいかなる場合でもどのような変更がなされたかを HII に確認する必要があります。本書に含まれる情報は、HII の責務を表すものではありません。

HII は以降に記す技術的または編集上のエラーや脱落について責任を負いません：取付け、性能、または本書の使用によって発生する突発的かつ間接的なダメージ。

本書には、著作権によって保護された情報が含まれており、全ての権利を留保します。事前の書面による HII の承諾なしに本著作の一部をいかなる形式または手段にても複写、複製、または翻訳することを禁じます。

© 2009 Honeywell International Inc. All rights reserved.

ウェブサイト : [www.honeywellaidc.com](http://www.honeywellaidc.com)

## 商標

Omnipolar、MetroSet2、Metrologic、MetroSelect、RangeGate、CodeGate、CodeSelect、Voyager、VoyagerCG、VoyagerBT および Focus は Metrologic Instruments, Inc. または Honeywell International Inc. が所有する商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は Microsoft Corporation が所有する商標または登録商標です。

IBM は International Business Machines Corporation が所有する商標です。

Bluetooth は Bluetooth SIG, Inc. が所有するものであり、使用に当たり Honeywell International Inc. にライセンス供与されています。

本書に記載されているその他製品名についても、各自企業の商標または登録商標であり、所有権を有する場合があります。



# 目次

<b>MetroSelect®</b> .....	<b>i</b>
<b>シングルラインスキャナ</b> .....	<b>i</b>
<b>設定ガイド</b> .....	<b>i</b>
<b>目次</b> .....	<b>iii</b>
<b>まえがき</b> .....	<b>1-1</b>
バーコードでの設定方法 .....	1-1
<b>シングル・コード方式</b> .....	1-1
<b>マルチ・コード方式</b> .....	1-1
最初からやり直す .....	1-2
<b>コード・タイプとデコードの規定</b> .....	<b>2-1</b>
UPC/EAN .....	2-1
Code 128 .....	2-2
Code 39 .....	2-2
2 of 5 Codes .....	2-3
Codabar .....	2-5
Code 93 .....	2-5
Code 11 .....	2-5
Telepen .....	2-6
Plessey Codes .....	2-6
追加のデコード機能 .....	2-7
読取桁数の設定 .....	2-8
<b>サプリメント</b> .....	<b>3-1</b>
<b>GS1 Databar</b> .....	<b>4-1</b>
GS1 Databar 制限バーコード .....	4-2
GS1 Databar 拡張バーコード .....	4-2
<b>ISBT Code 128 の実行</b> .....	<b>5-1</b>
設定モード .....	5-1
連続設定モード <sup>†</sup> .....	5-2
予め定義された連続設定モード <sup>†</sup> .....	5-2
ユーザー設定の連続設定モード .....	5-3
<b>通信</b> .....	<b>6-1</b>
<b>スキャナの操作</b> .....	<b>6-1</b>
設定モードのオプション .....	6-1
スキャン・バッファ .....	6-1
読取一致回数 .....	6-2

その他デコード機能.....	6-2
同一シンボル・タイムアウト.....	6-3
LED オプション.....	6-3
ブザー音のオプション.....	6-4
データ送信の遅延.....	6-6
通信タイムアウト・オプション.....	6-7
ホストスキャナのコマンド.....	6-8
テスト・モード.....	6-10
<b>プリフィクス/サフィックス.....</b>	<b>7-1</b>
ユーザーで設定可能なプリフィクス（全データ）.....	7-1
ユーザーで設定可能な ID キャラクタ（特定コード）.....	7-2
スタンダード・プリフィクス・キャラクタ.....	7-4
スタンダード・サフィックス・キャラクタ.....	7-6
水平冗長検査.....	7-7
チェック・キャラクタのブロック.....	7-7
キャラクタの置換.....	7-8
ユーザー設定可能なサフィックス（全データ）.....	7-9
特殊フォーマット.....	7-10
<b>コード・フォーマット.....</b>	<b>8-1</b>
UPC/EAN のフォーマット.....	8-1
Codabar のフォーマット.....	8-3
Code 39 のフォーマット.....	8-4
Code 11 のフォーマット.....	8-4
Telepen のフォーマット.....	8-4
Plessey のフォーマット.....	8-5
2 of 5 Code のフォーマット.....	8-5
<b>RS232.....</b>	<b>9-1</b>
パリティ.....	9-1
ボーレート（通信速度）.....	9-1
データ/ストップ・ビット.....	9-2
ハードウェア・ハンドシェーキング（制御）.....	9-2
ソフトウェア・ハンドシェーキング（制御）.....	9-4
その他.....	9-5
<b>キーボード.....</b>	<b>10-1</b>
キーボード・エミュレーションを有効にする.....	10-1
各国/スキャン・コード表の選択.....	10-1
キーボード/システム・タイプ.....	10-2
ダム端末の選択.....	10-3
特殊キーボード機能.....	10-4
インタースキャン・コードの遅延.....	10-6
コントロール・セット.....	10-7
コントロール・セット t#1.....	10-7
<b>OCIA.....</b>	<b>11-1</b>

<b>ライトペン・パラメータ</b> .....	<b>12-1</b>
細エレメント幅の設定 .....	12-2
<b>IBM® 46xx の設定</b> .....	<b>13-1</b>
IBM ポート .....	13-1
IBM 予備コード .....	13-1
<b>USB</b> .....	<b>14-1</b>
<b>コート・バイトの使用方法</b> .....	<b>15-1</b>
コート・バイト 0-9 .....	15-1
コード・タイプ表 .....	15-2
ASCII 参照表 .....	15-3
拡張キー・コード参照表 .....	15-7
<b>MS9520 Voyager® および MS9540 VoyagerCG® シリーズ</b> .....	<b>16-1</b>
稼動範囲 .....	16-1
スタンド・スキャン・モード .....	16-1
CodeGate®の状態 .....	16-1
レーザー / スキャン・モード .....	16-2
同一シンボル・タイムアウト .....	16-3
MS9520-00 および MS9540-00 レーザー・エミュレーション・モード .....	16-4
<b>MS9524 および MS9544 VoyagerPDF® シリーズ</b> .....	<b>17-1</b>
PDF CodeGate の状態 .....	17-1
MicroPDF および合成コードの取り扱い .....	17-1
<b>MS9535 VoyagerBT®</b> .....	<b>18-1</b>
<b>MS9535-5M VoyagerBT</b> .....	<b>19-1</b>
インベントリ数量バーコード** .....	19-3
<b>IS4125 / IS4225 スキャン・エンジン</b> .....	<b>20-1</b>
<b>IS4823 および IS4825 スキャン・エンジン</b> .....	<b>21-1</b>
操作モード .....	23-1
アクティベーション・モード .....	23-1
アクティベーション・モード 機能 .....	23-2
連続点減モード .....	23-3
スリープ・モード .....	23-3
<b>その他機能</b> .....	<b>24-1</b>
カスタム・デフォルト .....	24-1
シリアル・プログラム・モード .....	24-2
<b>各国事業拠点</b> .....	<b>25-1</b>





## まえがき

この新しいスキャナには、工場出荷前にデフォルト値のパラメータが設定されています。

多くのホストシステムには、固有のフォーマットとプロトコル要件が設定されています。ハネウエルの製品では、本書の設定バーコードを使用することによって幅広い設定がご利用いただけます。設定が完了したら、スキャナは不揮発性メモリ（NOVRAM）に設定を格納します。電源をオフにすると、NOVRAMは設定を保存します。

*Note:* アスタリスク（\*）の付いたバーコードはデフォルト設定を意味します。  
波形記号（～）の付いたバーコードには「マルチ・コード方式」による設定が必要です。

## バーコードでの設定方法

MetroSelect クラスのスキャナでは、2つの方法でバーコード設定ができます。  
「シングル・コード方式」と「マルチ・コード方式」です。

*Note:* MS9540 スキャナを正しく設定するには、CodeGate<sup>®</sup> オプションを使ってすべての設定コードをスキャンしなければなりません。

### シングル・コード方式

ほとんどの機能は「シングル・コード方式」で有効または無効にすることができます。

1. スキャナの電源を入れます。
2. 適切な機能のバーコードをスキャンします。
3. 設定が NOVRAM に保存されたことを示すマルチトーンの「設定保存」ブザーを確認します。

### マルチ・コード方式

すべての機能は「マルチ・コード方式」で有効または無効にすることができます。  
波形記号（～）のついた機能には「マルチ・コード方式」を使用する必要があります。

1. スキャナの電源を入れます。
2. 「設定開始／終了モード」バーコードをスキャンします。（ブザー音 3 回）
3. 適切な機能のバーコードをスキャンします。（ブザー音 1 回）

#### 設定モード 開始 / 終了



---

## 最初からやり直す

「デフォルト」バーコードをスキャンしてください。これはすべての設定を消去してスキャナをデフォルトのコミュニケーションプロトコル（初期設定）に戻します。

キーボードウェッジ・インターフェース・スキャナは、キーボードウェッジのデフォルトを読み込みます。

その他のスキャナはRS232 デフォルトを読み込みます。

*Note:* ハネウエルは OEM のデフォルトを読み込める特別注文の OEM スキャナを製造しています。これら OEM スキャナはハネウエルの標準品とは異なるデフォルトを使用している可能性があります。カスタム・デフォルトに関する追加情報について、またハネウエルのデフォルトにどう影響するかについては1ページを参照してください。

デフォルト



## コード・タイプとデコードの規定

アスタリスク（\*）の付いたバーコードは工場出荷時（デフォルト）の機能設定です。波形記号（～）のついたバーコードには「マルチ・コード方式」による設定が必要です。

### UPC/EAN



\* UPC/EAN を有効にする



UPC/EAN を無効にする



\* UPC-A を有効にする



UPC-A を無効にする



\* UPC-E を有効にする



UPC-E を無効にする



\* EAN-13 を有効にする



EAN-13 を無効にする



\* EAN-8 を有効にする



EAN-8 を無効にする

## Code 128



\* Code 128 を有効にする



Code 128 を無効にする



UCC/EAN-128 'J'C1'コード・フォーマットを有効にする : クーポンコード 128 は3-3ページを参照してください。



\* UCC/EAN-128 'J'C1'コード・フォーマットを無効にする



<FNC4>Code 128 キャラクタを無視する



\* <FNC4>を使用して拡張 ASCII キャラクタを確定する

## Code 39



\* Code 39 を有効にする



Code 39 を無効にする



Code 39 で MOD 43 チェック・デジットを有効にする : スキャナは有効な Modulo 43 チェック・デジットのある Code 39 バーコードのみスキャンします。



\* Code 39 の MOD 43 チェック・デジットを無効にする



Full ASCII Code 39 を有効にする



\* Full ASCII Code 39 を無効にする



PARAF (イタリアの医薬品コード) サポートを有効にする : Code 39 バーコードは PARAF フォーマットに変換されます。



\* PARAF サポートを無効にする



\* PARAF Code のみ許可する



PARAF Code 以外を許可する



TRI-OPTIC Code を有効にする



\* TRI-OPTIC Code を無効にする



\* スタンダード Code 39 の構成を使用する



5 Bar Multiples のない Code 39 を試す



ITF/Code 39 フィルタを有効にする



\* ITF/Code 39 フィルタを無効にする



Self-Service Library Code 39 を有効にする



\* Self-Service Library Code 39 を無効にする



MOD 43 チェック・デジットを送信する : Self-Service Library Code 39 つき



\* MOD 43 チェック・デジットを送信しない : Self-Service Library Code 39 つき



Code 39 代替リファレンス比較チェックを有効にする : 2 から 1 値 (太から細) のエレメント幅要件より低いエレメントを支援します。



\* ノーマルの Code 39 リファレンス比較チェック

## 2 of 5 Codes



\* Interleaved 2 of 5 (ITF) を有効にする



Interleaved 2 of 5 (ITF) を無効にする



ITF の MOD 10 チェックを有効にする : スキャナは Modulo 10 チェック・デジット付きの Interleaved 2 of 5 (ITF) バーコードのみをスキャンします。



\* ITF の MOD 10 チェックを無効にする



ITF のヌル・キャラクタを許可する



\* ITF のヌル・キャラクタを許可しない



~ ITF 読取桁数固定 1 : 最初の ITF 読取桁数を固定するには、このバーコードと 16-1 ページの適切なコート・バイトをスキャンしてください。



~ ITF 読取桁数固定 2 : 2 番目の ITF 読取桁数を固定するには、このバーコードと 16-1 ページの適切なコート・バイトをスキャンしてください。



~ ITF 最小読取桁数 : ITF の最小読取桁数を指定するには、このバーコードと 16-1 ページの適切なコート・バイトをスキャンしてください。



代替 ITF 1<sup>st</sup> バー・リファレンス



\* ノーマル ITF 1<sup>st</sup> バー・リファレンス



スタンダード 2 of 5 を有効にする



\* スタンダード 2 of 5 を無効にする



~ スタンダード 2 of 5 の読取桁数固定：読取桁数の固定には、このバーコードと16-1 ページの適切なコート・バイトをスキャンしてください。



Matrix 2 of 5 を有効にする



\* Matrix 2 of 5 を無効にする



\* Matrix 2 of 5 チェック・デジット要件を有効にする



Matrix 2 of 5 チェック・デジット要件を無効にする



15 桁 Airline 2 of 5 を有効にする



\* 15 桁 Airline 2 of 5 を無効にする



13 桁 Airline 2 of 5 を有効にする



\* 13 桁 Airline 2 of 5 を無効にする



Hong Kong 2 of 5 を有効にする



\* Hong Kong 2 of 5 を無効にする



Follett ITF を有効にする



\* Follett ITF を無効にする

---

## Codabar



\* Codabar を有効にする



Codabar を無効にする



デュアルフィールド Codabar を有効にする



\* デュアルフィールド Codabar を無効にする

## Code 93



\* Code 93 を有効にする



Code 93 を無効にする

## Code 11



Code 11 を有効にする



\* Code 11 を無効にする



\* Code 11 チェック・デジットを1つチェックする



Code 11 チェック・デジットを2つチェックする



\* Code 11 チェック・デジットを2つチェックしない



読取桁数が10桁以上の場合、Code 11 チェック・デジットを2つチェックする

---

## Telepen



Telepen を有効にする



\* Telepen を無効にする



ALPHA Telepen を有効にする



\* ALPHA Telepen を無効にする

## Plessey Codes



MSI Plessey を有効にする



\* MSI Plessey を無効にする



\* MSI Plessey チェック・デジットなし : Plessey バーコードはチェック・デジットをテストしません。



MSI Plessey MOD 10/10 チェック・デジットを有効にする : MSI Plessey バーコードは 2 桁の Modulo 10 チェック・デジットをテストします。



\* MSI Plessey MOD 10 チェック・デジットを有効にする : MSI Plessey バーコードは 1 桁の Modulo 10 チェック・デジットをテストします。



UK Plessey を有効にする



\* UK Plessey を無効にする



UK Plessey の A から X の変換を有効にする



\* UK Plessey の A から X の変換を無効にする



\* スタンダード Plessey ストップキャラクタ



不良な Plessey ストップキャラクタを許可する



## 追加のデコード機能



ダブルポーター要求／広い文字間余白を有効にする



\* ダブルポーター要求／広い文字間余白を無効にする



スモールポーター要求を有効にする



\* スモールポーターを無効にする



~ 最小読取桁数：シングルラインスキャナの最小読取桁数はデフォルトで3桁です。このコードを16-1 ページの適切なコート・バイトに組み合わせ、UPC/EAN バーコード以外の最小読取桁数を指定します。



~ 読取桁数固定：このコードを16-1 ページの適切なコート・バイトに組み合わせ、読み取りできるバーコードの桁数を固定します。



バー&スペースカウントの Modulus 8 フィルタを有効にする



\* バー&スペースカウントの Modulus 8 フィルタを無効にする



Code 39 不良ポーターを許可する



\* Code 39 不良ポーターを無効にする

## 読取桁数の設定

バーコードのタイプと読取桁数を最大7種類まで設定できます。特定のバーコードタイプをバーコードの長さに割り当てます。設定モードで、次の事項を行います。

1. 「読取コード固定#1：桁数」のバーコードをスキャンします。
2. コードの桁数を示す3種類のコート・バイト（16-1ページ参照）をスキャンします。
3. 「読取コード固定#1：コード・タイプ」のバーコードに適合するコード・タイプをスキャンします。
4. コード・タイプを表す3つのコート・バイトをスキャンします。

※ 読取桁数指定#2から#7までこのプロセスを繰り返してください。



~ 読取コード固定#1：桁数



~ 読取コード固定#1：コード・タイプ



~ 読取コード固定#2：桁数



~ 読取コード固定#2：コード・タイプ



~ 読取コード固定#3：桁数



~ 読取コード固定#3：コード・タイプ



~ 読取コード固定#4：桁数



~ 読取コード固定#4：コード・タイプ



~ 読取コード固定#5：桁数



~ 読取コード固定#5：コード・タイプ



~ 読取コード固定#6：桁数



~ 読取コード固定#6：コードタイプ



~ 読取コード固定#7：桁数



~ 読取コード固定#7：コードタイプ



日本語マルチフィールドを有効にする



日本語マルチフィールドを無効にする



## サプリメント



2 桁のサプリメントを有効にする



\* 2 桁のサプリメントを無効にする



\* 2 桁の 2 回一致読取を有効にする : スキャナはバーコードおよび 2 桁のサプリメントを 2 度スキャンしてからデータを受け付けます。



2 桁の 2 回一致読取を無効にする



5 桁のサプリメントを有効にする



\* 5 桁のサプリメントを無効にする



5 桁の 2 回一致読取を有効にする : スキャナはバーコードおよび 5 桁のサプリメントを 2 度スキャンしてからデータを受け付けます。



\* 5 桁の 2 回一致読取を無効にする



サプリメントの必要あり : スキャンされた UPC/EAN ラベルはすべてサプリメントが必要です。



\* サプリメントの必要なし



Remote サプリメント要求を有効にする : MS9500、MS6200 は対応していません。



\* Remote サプリメント要求を無効にする : MS9500、MS6200 は対応していません。



Bookland (979) サプリメント要求を有効にする



\* Bookland (979) サプリメント要求を無効にする



Bookland (978) サプリメント要求を有効にする



\* Bookland (978) サプリメント要求を無効にする



977 (2桁) サプリメント要求を有効にする : EAN-13 code が 977 で始まる場合、スキャナは 2桁のサブプリメントスキャンを要求します。



\* 977 (2桁) サプリメント要求を無効にする



378/379 French サプリメント要求を有効にする



\* 378/379 French サプリメント要求を無効にする



414/419 German Bookland サプリメント要求を有効にする



\* 414/419 German Bookland サプリメント要求を無効にする



434/439 German サプリメント要求を有効にする



\* 434/439 German サプリメント要求を無効にする



#システム 2 のサブプリメント要求を有効にする



\* #システム 2 のサブプリメント要求を無効にする



UPC # System 5 のサブプリメント要求を有効にする



\* UPC # System 5 のサブプリメント要求を無効にする



\* 37x、43x または UPC # System 5 の 2 桁のサブプリメントを有効にする



37x、43x または UPC # System 5 の 2 桁のサブプリメントを無効にする



\* 37x、43x または UPC # System 5 の 5 桁のサブプリメントを有効にする



37x、43x または UPC # System 5 の 5 桁のサブプリメントを無効にする



クーポンコード 128 を有効にする



\* クーポンコード 128 を無効にする



Code 128 'C1' 拡張コード・フォーマットを有効にする：スキャナはクーポンコードの Code 128 部分の始めに'C1'を送信します。



\* Code 128 'C1' 拡張コード・フォーマットを無効にする



\* Code 128 グループセパレータを有効にする：クーポンコード 128 code とともに GS (1DH) キャラクタが送信されます。



Code 128 グループセパレータを無効にする



400 ミリ秒のサブプリメント検索：主要な UPC/EAN バーコードがスキャンされた後、スキャナはサブプリメントの検索に 400 ミリ秒を割り当てます。



200 ミリ秒のサブプリメント検索：主要な UPC/EAN バーコードがスキャンされた後、スキャナはサブプリメントの検索に 200 ミリ秒を割り当てます。



\* 100 ミリ秒のサブプリメント検索：主要な UPC/EAN バーコードがスキャンされた後、スキャナはサブプリメントの検索に 100 ミリ秒を割り当てます。



サプリメントつきコードID を有効にする



\* サプリメントつきコードID を無効にする



\* サプリメントにつきブザー音 1 回鳴らす



サプリメントにつきブザー音 2 回鳴らす



ISBN チェック・デジットの送信を有効にする：機種によってはご利用いただけません。



ISBN チェック・デジットの送信を無効にする



Bookland から ISBN の変換を有効にする：機種によってはご利用いただけません。



\* Bookland から ISBN の変換を無効にする



ISBN の再フォーマットを有効にする



\* ISBN の再フォーマットを無効にする



Bookland から ISBN 979 の変換を有効にする



\* Bookland から ISBN 979 の変換を無効にする



\* ノーマル ISBN の再フォーマット



13 桁 ISBN の再フォーマット





**CodeGate ボタンが押されたときにサブリメントを無効にする** : MS9540 スキャナのみご利用いただけます。スタンドの内外でスタンダード Code Gate が非アクティブであることが必要です。



**\* CodeGate はサブリメントのスキャンに影響しない** - MS9540 スキャナのみご利用いただけます。



**EAN-13 Code がスキャンされた場合にサブリメントのチェックを行わない**



**\* 通常サブリメントチェック**



## GS1 Databar

ハネウエルの MS9520 Voyager<sup>®</sup>および MS9540 VoyagerCG<sup>®</sup>レーザースキャナは、ソフトウェア#14810 以降のバージョンが搭載されている場合、GS1 Databar コードのスキャンを許可できます。



**ダブルボーダー要求** : GS1 Databar バーコードをスキャンする場合、大きなスペースがしばしば見受けられるため、ダブルボーダー要件を有効にすることをお勧めします。



**GS1 Databar 14 を有効にする**



\* **GS1 Databar 14 を無効にする**



\* **GS1 Databar 14 チェック・デジットを送信する**



**GS1 Databar 14 チェック・デジットを送信しない**



\* **GS1 Databar 14 アプリケーション ID を送信する** : アプリケーション ID 「01」がデフォルトで送信されます。



**GS1 Databar 14 アプリケーション ID を送信しない**



\* **GS1 Databar 14 シンボル ID を送信する** : シンボル ID 「e0」がデフォルトで送信されます。



**GS1 Databar 14 シンボルを送信しない**

## GS1 Databar 制限バーコード



GS1 Databar 制限を有効にする



\* GS1 Databar 制限を無効にする



\* GS1 Databar 制限 CD を送信する



GS1 Databar 制限 CD を送信しない



\* GS1 Databar 制限アプリケーション ID を送信する：アプリケーション ID 「01」がデフォルトで送信されます。



GS1 Databar 制限アプリケーション ID を送信しない



\* GS1 Databar 制限シンボル ID を送信する：シンボル ID 「]e0」がデフォルトで送信されます。



GS1 Databar 制限シンボル ID を送信しない

## GS1 Databar 拡張バーコード



GS1 Databar 拡張バーコードを有効にする



\* GS1 Databar 拡張バーコードを無効にする



\* GS1 Databar 拡張シンボル ID を送信する：シンボル ID 「]e0」がデフォルトで送信されます。



GS1 Databar 拡張シンボル ID を送信しない

## ISBT Code 128 の実行

### 設定モード



ISBT Code 128 を有効にする



ISBT Code 128 を無効にする

以下のバーコードは ISBT-128 仕様の 3.5.2 章に記載されている特別な送信モードを有効／無効にするために使われます。この出力方法によってユーザーは Code-128 のチェック・デジットの精度を自分で確認できます。



ISBT 特別送信を有効にする



ISBT 特別送信を無効にする

以下のバーコードを使用して ISBT Code 128 のデータ ID の送信を無効にできます。このオプションが選択された場合、スキャンされた ISBT バーコードにドネーション ID ナンバーが含まれていないと、最初の 2 つのデータキャラクターがデータストリーム (ID キャラクター) から除去されます。この場合、最初の ID キャラクターのみがドネーション ID ナンバーから除去されます。2 番目のキャラクターはノーマルデータとみなされます。



ISBT ID を送信しない



\* ISBT ID を送信する

以下のバーコードは、チェック・デジットがフラッグ・デジットに含まれるとき、ドネーション ID ナンバーのフラッグ・デジットから Mode 37 の 2 チェック・デジットを変換、送信するために使用されます。ドネーション ID ナンバーの送信は、単一のチェック・サムキャラクターに変換された最後の 2 桁を除き同一です。



フラッグ・デジットを Mod 37、2 CD に変換する



\* ノーマル・フラッグデジットの送信

## 連続設定モード†

以下のバーコードは、ISBT 連結シーケンスの 2 番目のバーコードを検索するための可変時間要件の設定に使用されます。



100 ミリ秒の連結シーケンス検索



200 ミリ秒の連結シーケンス検索



300 ミリ秒の連結シーケンス検索



400 ミリ秒の連結シーケンス検索



500 ミリ秒の連結シーケンス検索



600 ミリ秒の連結シーケンス検索



700 ミリ秒の連結シーケンス検索

## 予め定義された連続設定モード†

以下のうち、最初の 2 つのバーコードは、予め定義された連結シーケンスを有効／無効にするために使用できます。残りのバーコードは、特定事項が可能な連結シーケンスを有効にするためのもので、連結を可能にするためには必要ではありません。予め定義された連結シーケンスを無効にするためにも、再び有効にするためにも使用できます。



予め定義された連結シーケンスを有効にする



予め定義された連結シーケンスを無効にする



ドネーション ID ナンバー + AB0/Rh (D) 血液型 =á + =% 連結

† この機能は、MS9500 Voyager シリーズのみ対応しています。



ドネーション ID ナンバー+ 機密ユニット除外状態 =& + &! 連結



製品コード + 有効期限 (フォーム 1)  
=< + => 連結



製品コード + 有効期限 (フォーム 2)  
=< + &> 連結



製品コード + 有効期限 (フォーム 3)  
&< + => 連結



製品コード + 有効期限 (フォーム 4)  
&< + &> 連結

## ユーザー設定の連続設定モード

以下のうち、最初の 2 つのバーコードは、ユーザー定義された連結シーケンスを有効／無効にするために使用します。残りのバーコードは、連結シーケンスで使用されるユーザー定義の ID を入力するために使用します。これらのバーコードでは、最初に設定モードに入る必要があります。それから適切なコードをスキャンし、その後、ふさわしい ID を入力するコート・バイトの使用規定に従ってください。



ユーザー定義のシーケンスを有効にする



ユーザー定義のシーケンスを無効にする



左 1 桁目の ID



左 2 桁目の ID



右 1 桁目の ID



右 2 桁目の ID

†この機能は、MS9500 Voyager シリーズのみ対応しています。

以下の例は、ユーザー定義の ISBT ID の設定方法を示しています。

左側の ID は ISBT 定義のドネーション ID ナンバー「=G」であり、右側の ID は各国ごとの ID「&a」であると仮定します。

1. 「設定モード開始/終了」バーコードをスキャンします。
2. 「左 1 桁目の ID 設定モード」バーコードをスキャンします。
3. (Code Byte 0) + (Code Byte 6) + (Code Byte 1) をスキャンします。
4. 「左 2 桁目の ID 設定モード」バーコードをスキャンします。
5. (Code Byte 0) + (Code Byte 7) + (Code Byte 1) をスキャンします。
6. 「右 1 桁目の ID 設定モード」バーコードをスキャンします。
7. (Code Byte 0) + (Code Byte 3) + (Code Byte 8) をスキャンします。
8. 「右 2 桁目の ID 設定モード」バーコードをスキャンします。
9. (Code Byte 0) + (Code Byte 9) + (Code Byte 7) をスキャンします。
10. 「ユーザー定義のシーケンスバーコードを有効にする」をスキャンします。
11. 「ISBT バーコードを有効にする」をスキャンします。
12. 「設定モード開始/終了」バーコードをスキャンします。

これで、適切な ID がスキャナに設定されました。ISBT とユーザー定義の連結がいずれも有効になったので、それらの ID を含む ISBT 128 バーコードを続けてスキャンすると、それらが連結されます。

ユーザー定義連結シーケンスの設定に使用できる別の方法が ISBT 仕様の 4.8.1 章に記載されています。前述の例を使い、ID を単一の設定モード・バーコードに設定できます。以下のバーコードはユーザー定義の連結を有効/無効にするのに使用できます。

**(左、=G) + (右、&a) を有効にする**



**(左、=G) + (右、&a) を無効にする**



*Note:* 以下の設定モード・バーコードは、シングル・コード方式の設定モードでのみ使用できます。マルチコードの設定モードでは、以下のバーコードは認識されません。

2つの連結シーケンスが常時有効になります。一つは予め定義されたシーケンスで、もう一つはユーザー定義のシーケンスです。コードの選択と ISBT Code-128 の連結は、同時に使用できません。両機能は同じ内部リソースを使用するため、相互排他的に機能します。



## 通信



**ライトペン/Wand 通信を有効にする**：スキャナがライトペンの代わりに使用される場合、このオプションを使用します。



\* **RS232 を有効にする**：スキャナは RS232 +/- 12V のシリアル出力となります。



**キーボードウェッジのデフォルトを読み込む**：ノーマルまたはスタンドアローンのウェッジモードを選択する前にこのコードをスキャンしてください。



**スタンドアローン・キーボードスキャナを有効にする**：外部キーボードなしでスキャナを使用できます。



**キーボードウェッジ・エミュレーションを有効にする**：スキャナがスキャンしたバーコードデータを、PC キーボードスキャンコードデータに変換してキーボード・エミュレーションする場合、これを選択します。



**OCIA デフォルトを読み込む**：「OCIA 出力を有効にする」を選択する前にこのコードをスキャンしてください。



**OCIA 出力を有効にする**：通信要件が OCIA（光結合インターフェース）の場合、このオプションを選択します。これはホストとドッキングしているシリアルインターフェースです。



**IBM 46xx デフォルトを読み込む**



**IBM 46xx 通信を有効にする**：IBM 46xx SIOC/RS485 通信の場合、このオプションを選択します。このオプションに対応していないスキャナもあるので、正しいインターフェース・ボードが必要です。



**非通信モードを有効にする**：スキャナがホストデバイスとつながっていない場合、このオプションを選択します。



予備



予備



## スキャナの操作

### 設定モードのオプション



電源オンで設定モードを許可する：スキャナは、バーコードをスキャンする前にのみ MetroSet モードに入ります。



\* 常時設定モードを許可する：常時、MetroSet 設定を許可します。



電源オンで設定コードを許可する：電源をオンにしてから製品コードをスキャンすると、スキャナは設定バーコードのスキャンを許可しません。



\* 常時設定コードを許可する：常時、設定バーコードのスキャンを許可します。

### スキャン・バッファ



\* 1 スキャン・バッファ：スキャナはスキャン・フィールドのバーコードを 1 つスキャンし、同一シンボル・タイムアウトの時間内はそのバーコードがスキャン・フィールドから除去されるまで再スキャンしません。



2 スキャン・バッファ：スキャナはスキャン・フィールドのバーコードを、一度に 1 つずつ、2 つスキャンします。その 2 つのバーコードは同一シンボル・タイムアウトの時間内はスキャン・フィールドから除去されるまで再スキャンされません。



3 スキャン・バッファ：2 スキャン・バッファと同じ機能で、スキャン・フィールドに 3 つのバーコードがある場合です。



4 スキャン・バッファ：2 スキャン・バッファと同じ機能で、スキャン・フィールドに 4 つのバーコードがある場合です。

## 読取一致回数



\* 2回一致読取無効：スキャン成功とみなすためにバーコードを1回のみ読み取ります。



2回一致読取有効：スキャン成功とみなすために同一バーコードの2連続読取が必要となります。



3回一致読取有効：スキャン成功とみなすために同一バーコードの3連続読取が必要となります。



4回一致読取有効：スキャン成功とみなすために同一バーコードの4連続読取が必要となります。



5回一致読取有効：スキャン成功とみなすために同一バーコードの5連続読取が必要となります。



6回一致読取有効：スキャン成功とみなすために同一バーコードの6連続読取が必要となります。



7回一致読取有効：スキャン成功とみなすために同一バーコードの7連続読取が必要となります。



8回一致読取有効：スキャン成功とみなすために同一バーコードの8連続読取が必要となります。

## その他デコード機能



\* 同一シンボルのチェック（オプション）：「新しい」バーコードと認識させるためには、次のバーコードとの間に異なるキャラクタが1つ必要です。



同一シンボルのチェック（ノーマル）：「新しい」バーコードと認識させるためには、次のバーコードとの間に異なるキャラクタが3つ必要です。

## 同一シンボル・タイムアウト

バーコードがスキャンフィールドから除去されてから再スキャンされるまでの時間の長さは、50 ミリ秒から 6350 ミリ秒（6.35 秒）単位でユーザー設定ができます。

MS9500 または IS4125 を使用している場合は、17-3 ページを参照して下さい。



~ **可変の同一シンボル・タイムアウト**：同一シンボル・タイムアウト時間を設定するには、マルチ・コード方式にした上で、このバーコードと1 ページのコード・バイトシーケンスをスキャンします。この機能は MS9500 および IS4125 では対応していません。詳細は17-3 ページを参照してください。



**同一シンボル・タイムアウトなし**



**同一シンボル・タイムアウトが無限**：スキャナは同じバーコードを繰り返しスキャンしません。このオプションはバーコードの再スキャン時のタイムアウトを無視します。



**2 秒のタイムアウトを有効にする**：2 秒間反応がなければ、レーザーは停止し、CodeGate ボタンが押されるまで停止状態を維持します。この機能は MS5145 のみ使用できます。



**2 秒のタイムアウトを無効にする**

## LED オプション



**再スキャンが可能になると緑色の LED が点滅する**：同一シンボル・タイムアウトが経過したことを示します。



\* **再スキャンが可能になっても緑色の LED は点滅しない**



**LED 機能の逆表示**：赤色＝レーザーがオン、緑色＝読み込み成功



\* **LED 機能の通常表示**：緑色＝レーザーがオン、赤色＝読み込み成功

## ブザー音のオプション



\* 通常の音調



音調 1



音調 2



音調 3



音調 4



音調 5



音調 6



ブザー音なし



\* サプリメントがあればブザー音 1 回



サプリメントがあればブザー音 2 回



短いブザー音を有効にする



\* 短いブザー音を無効にする



ファントーンを有効にする：このバーコードをスキャンし、次に、上記の音調 1~6 のバーコードを 1 つスキャンします。



\* ファントーンを無効にする



**BEL コマンドでブザー音発生**：スキヤナはホストから BEL キャラクタを受信するとブザーを鳴らします。BEL キャラクタの前 200 ミリ秒以内に数字が送信されると、スキヤナはその回数だけブザーを鳴らします。



\* **BEL コマンドを無視する**



**ブザー音鳴動中、ライトペンの切り替えを有効にする**：デコードが成功した場合、スキヤナはブザーを鳴らし、ライトペン・データラインを切り替えます。これは読み込み成功の指標となります。



\* **ブザー音鳴動中、ライトペンの切り替えを無効にする**



**パススルーを有効にする**



**パススルーを無効にする**



**パススルー・データでブザーを鳴らす**



\* **パススルー・データでブザーを鳴らさない**



**記録カウントキャプチャを有効にする**



\* **記録カウントキャプチャなし**



**記録カウントを送信する**

---

## データ送信の遅延

以下のコードにより、スキャナからホストへデータを送信する際のデータキャラクタ間の送信間隔を設定することができます。これは、スキャナのホスト入力バッファのオーバーフローを予防するのに役立ちます。



\* 1 ミリ秒のキャラクタ間の遅延



10 ミリ秒のキャラクタ間の遅延



25 ミリ秒のキャラクタ間の遅延



~ 可変ミリ秒のキャラクタ間遅延：このバーコードと16-1 ページのコート・バイトシーケンスをスキャンして、ホストシステムに送信するキャラクタ間の遅延（1 から 255 ミリ秒の範囲）を設定します。



キャラクタ間の遅延なし



~ 可変記録間の遅延



記録間の遅延の間レーザーをオフにする



\* 記録間の遅延の間レーザーをオンにする



## 通信タイムアウト・オプション



通信タイムアウトを有効にする



\* 通信タイムアウトを無効にする



\* 送信前にブザーを鳴らす



送信後にブザーを鳴らす



~可変通信タイムアウト



\* デフォルトの通信タイムアウト (2 秒)



短い通信タイムアウト (1 秒)



長い通信タイムアウト (4 秒)



タイムアウト時にブザー3回



\* タイムアウト時にブザーなし



タイムアウト時にエラー音を鳴らす



\* タイムアウト時にエラー音なし

## ホストスキャナのコマンド



**D/E 無効コマンドを有効にする** : ホストデバイスから ASCII 「D」 を受信するとスキャンが無効になります。ASCII 「E」 を受信するとスキャンが有効になります。



\* D/E 無効を無効にする



**Z/R タイプの D/E シミュレーションを有効にする** : ホストデバイスから ASCII 「Z」 を受信するとスキャンが無効になります。ASCII 「R」 を受信するとスキャンが有効になります。



\* Z/R タイプの D/E シミュレーションなし



**F/L レーザーコマンドを有効にする** : スキャナは ASCII 「F」 を受信するとレーザーを停止します。ASCII 「L」 を受信するとレーザーを作動させます。



\* F/L レーザーコマンドを無効にする



**DTR スキャン不可を使用する** : スキャナはスキャンを許可するかどうか決定するため DTR 入力を監視します。A +12V 「アクティブ」 レベルはデコードを有効にします。A -12V 「非アクティブ」 レベルはデコードを無効にします。



\* DTR スキャン不可を使用しない : DTR 入力を監視しません。



**DC2 キャラクターで稼働する** : DC2 キャラクター (^R、124) を受信するとスキャンを開始します。



\* DC2 キャラクターで稼働しない



**RS232 経由で 「I」 (49H) を受信すると 「METROLOGIC」 を送信する**



\* RS232 経由で 「I」 (49H) を受信しても 「METROLOGIC」 を送信しない



RS232 経由で「i」 (69H) を受信するとスキャナ ID バイトを送信する : ID バイトは 3 バイト (例 : 0、0、1) で送信されます。



\* RS232 経由で「i」 (69H) を受信してもスキャナ ID バイトを送信しない



CD2 が稼働すると「NO READ」を送信する



\* CD2 が稼働しても「NO READ」を送信しない



「NO READ」送信中、緑色の LED を点灯しない



\* 「NO READ」送信中、緑色の LED を点灯する



シリアルナンバーを送信する



モーターのオン/オフコマンドを有効にする



\* モーターのオン/オフコマンドを無効にする



RS232 受信を無効にする



ノーマルの RS232 受信



Banco 制御モードを有効にする



Banco 制御モードを無効にする



バーコード送信にプロトコルのプレフィックスおよびサフィックスを使用する



\* バーコード送信にプロトコルのプレフィックスおよびサフィックスを使用しない



No Read で RTS を有効にする : NO READ が発生すると、スキャナは RTS ラインを 20 ミリ秒間稼働させます。RTS の稼働時間は 10 ミリ秒刻みでアドレス 199 に 6~0 ビットで読み込むことができる



\* NO READ で RTS を無効にする

## テスト・モード



スキャンカウントモード・オン : スキャナはスキャンカウント・テストモードに入り、スキャナのファームウェアナンバーがホストに送信されます。ハネウエルの担当者に指示されない限り有効にしないでください。



\* スキャンカウントモード・オフ



保存したインターフェースで起動 : ハネウエルの担当者に指示されない限り有効にしないでください。



\* ボードインターフェースで起動 : ハネウエルの担当者に指示されない限り有効にしないでください。

## プリフィクス/サフィックス

以下の機能を設定する前に「設定モード開始/終了」バーコードをスキャンしてください（1-1ページのマルチコード方式を参照）。

### ユーザーで設定可能なプリフィクス（全データ）



~ 設定可能なプリフィクス・キャラクター #1 : 1つのプリフィクス ID をデータ送信時に追加してホストへ送信します。このコードとともに、任意のキャラクターを表すコード・バイトシーケンス（16-1ページ）を使用してください。



~ 設定可能なプリフィクス・キャラクター #2 : 2番目のプリフィクス・キャラクターを設定します。



~ 設定可能なプリフィクス・キャラクター #3 : 3番目のプリフィクス・キャラクターを設定します。



~ 設定可能なプリフィクス・キャラクター #4 : 4番目のプリフィクス・キャラクターを設定します。



~ 設定可能なプリフィクス・キャラクター #5 : 5番目のプリフィクス・キャラクターを設定します。



~ 設定可能なプリフィクス・キャラクター #6 : 6番目のプリフィクス・キャラクターを設定します。



~ 設定可能なプリフィクス・キャラクター #7 : 7番目のプリフィクス・キャラクターを設定します。



~ 設定可能なプリフィクス・キャラクター #8 : 8番目のプリフィクス・キャラクターを設定します。



~ 設定可能なプリフィクス・キャラクター #9 : 9番目のプリフィクス・キャラクターを設定します。



~ 設定可能なプリフィクス・キャラクター #10 : 10番目のプリフィクス・キャラクターを設定します。



\* ユーザー設定可能なプリフィクスをすべてクリアする

## ユーザーで設定可能な ID キャラクタ (特定コード)



\* 設定可能なコード ID バイトをプレフィックスとして使用する：ユーザー設定可能な特定コード ID バイトがデータの前に送信されます。プレフィックスが使われている場合、ユーザー設定可能なサフィックスは使用できません。



設定可能なコード ID バイトをサフィックスとして使用する：ユーザー設定可能な特定コード ID バイトがデータの後に送信される。サフィックスが使われている場合、ユーザー設定可能なプレフィックスは使用できません。

‡ 「設定モード開始/終了」バーコードを読み取ってから、以下のバーコードをスキャンし、続いてそのバーコードタイプと関連する固有の ID キャラクタを示す1 ページの3 コート・バイト・バーコードをスキャンします。



~ 設定可能な UPC-A ID ‡



~ 設定可能な UPC-E ID ‡



~ 設定可能な EAN-8 ID ‡



~ 設定可能な EAN-13 ID ‡



~ 設定可能な 39 ID ‡



~ 設定可能な 128 ID ‡



~ 設定可能な 93 ID ‡



~ 設定可能な 11 ID ‡



~ 設定可能な Telepen ID ‡

‡ 「設定モード開始/終了」バーコードを読み取ってから、以下のバーコードをスキャンし、続いてそのバーコードタイプに関連する固有の ID キャラクタを示す1 ページの3 コート・バイト・バーコードをスキャンします。



~ 設定可能な TRI-OPTIC ID ‡



~ 設定可能な Standard 2 of 5 ID ‡



~ 設定可能な Interleaved 2 of 5 ID ‡



~ 設定可能な Matrix 2 of 5 ID ‡



~ 設定可能な Airline 2 of 5 ID ‡



~ 設定可能な MSI Plessey ID ‡



~ 設定可能な UK Plessey ID ‡



~ 設定可能な Codabar ID ‡



\* 設定可能な特定コード ID をすべてクリアする：既に認識された固有の ID キャラクタをすべてクリアします。



Teraoka ID を有効にする



\* Teraoka ID を無効にする



Taiwan 7-11 ID を有効にする



\* Taiwan 7-11 ID を無効にする

## スタンダード・プリフィクス・キャラクタ



**STX プレフィックスを有効にする**：スキャナは各バーコードの前に Start of TeXt (ASCII 02H) を送信します。



\* **STX プレフィックスを無効にする**



**Rochford-Thomson モードを有効にする**



\* **Rochford-Thomson モード無効にする**



**AIM ID キャラクタを有効にする**



\* **AIM ID キャラクタを無効にする**



**UPC プレフィクス ID を有効にする**：スキャナは UPC/EAN バーコードの前にプレフィックスを送信します。送信されるプレフィックスは A (UPC-A)、E0 (UPC-E)、F (EAN-13)、FF (EAN-8) です。



\* **UPC プレフィクス ID を無効にする**



**NCR プレフィクス ID を有効にする**：スキャナは以下のコード・タイプの前にプレフィックスを送信します。送信されるプレフィックスは以下の通りです。A (UPC-A)、E0 (UPC-E)、FF (EAN-8)、F (EAN 13)、B1 (Code 39) B2 (ITF)、B3 (Code 128 およびその他)



\* **NCR プレフィクス ID を無効にする**



**NCR プレフィクス・キャラクタを有効にする**



**Nixdorf ID キャラクタを有効にする**：このオプションは多くの Siemen/Nixdorf レジスター用の各バーコードの前にコード ID を送信します。



\* **Nixdorf ID キャラクタを無効にする**





SANYO ID キャラクタを有効にする



\* SANYO ID キャラクタを無効にする



メーカーID プレフィックスを有効にする：すべてのバーコードデータの前に「METROLOGIC」を送信します。



\* メーカーID プレフィックスを無効にする



「C」プレフィックスを有効にする



\* 「C」プレフィックスを無効にする



UPC/EAN の「\$」プレフィックス ID を有効にする



\* UPC/EAN の「\$」プレフィックス ID を無効にする



TAB プレフィックスを有効にする：スキャナは各バーコードの前に TAB (ASCII 09H) を送信します。



\* TAB プレフィックスを無効にする



SNI Beetle モードを有効にする



\* SNI Beetle モードを無効にする



Cipher 1021 ID を有効にする



\* Cipher 1021 ID を無効にする

## スタンダード・サフィックス・キャラクタ



\* CR サフィックスを有効にする：スキャナは各バーコードの後にキャリッジ・リターンを送信します。



CR サフィックスを無効にする



\* LF サフィックスを有効にする：スキャナは各バーコードの後にラインフィードを送信します。キーボードウェッジ・デフォルトが読み込まれているときは無効になります。



LF サフィックスを無効にする



TAB サフィックスを有効にする：スキャナは各バーコードの後に TAB (ASCII 09H) を送信します。



\* TAB サフィックスを無効にする



ETX サフィックスを有効にする：スキャナは各バーコードの日付の後に End of TeXt (ASCII 03H) を送信します。



\* ETX サフィックスを無効にする



UPC サフィックス ID を有効にする：スキャナは UPC/EAN バーコードの後にサフィックスを送信します。送信されるサフィックスは A (UPC-A)、E (UPC-E)、F (EAN-13)、F (EAN-8) です。



\* UPC サフィックス ID を無効にする



NCR サフィックス・キャラクタを有効にする



Tec 7-11 ID を有効にする



\* Tec 7-11 ID を無効にする

---

## 水平冗長検査

水平冗長検査（LRC：Longitudinal Redundancy Check）は、データキャラクタのシーケンスを計算するエラーチェックキャラクタです。チェックされるキャラクタは XOR（排他的論理和）によって決定され、初期値 00H から開始されます。

その結果、「LRC byte」がデータ・ストリームの後に送信され、受信側の PC に情報が正しく伝わったかどうか決定するために「LRC byte」が使われます。スキヤナの場合、XOR はパリティ・ビット（PBIT）を追加する前に行われます。

LRC が有効の場合、スキヤナのデフォルトでは、送信される情報の 2 番目のバイトから LRC が開始されます。オプションとして、送信される最初のバイトで計算を開始することもできます。



**LRC 計算の送信を有効にする**：スキヤナはバーコードの後に LRC チェック・キャラクタに出力します。



\* **LRC 計算の送信を無効にする**



\* **最初のバイトで LRC を開始する**：スキヤナは最初のキャラクタから LRC チェック・デジットを計算します。



**2 番目のバイトで LRC を開始する**：スキヤナは 2 番目のキャラクタから LRC チェック・デジットを計算します。

## チェック・キャラクタのブロック



\* **NCR BCC を有効にする**



**NCR BCC を無効にする**

---

## キャラクタの置換

下記の手順でキャラクタの置換を行います。

1. 1-1ページの「設定モード 開始/終了」のバーコードをスキャンします。
2. コードが置換されるキャラクタをスキャンします。（下記参照）
3. 置換されるキャラクタの ASCII コード・バイト値をスキャンします。（このマニュアルの「コード・バイト 使用方法」の章の ASCII 参照表を参照）
4. 置換するキャラクタのバーコードをスキャンします。（下記参照）
5. 置換するキャラクタの ASCII コード・バイト値をスキャンします。
6. 1-1ページの「設定モード 開始/終了」のバーコードをスキャンします。



~ 置換するキャラクタ



~ 置換後のキャラクタ



置換なし

## ユーザー設定可能なサフィックス（全データ）

Note: 1-1ページのマルチ・コード方式を参照し、この機能を試す前に「設定モード開始／終了」のバーコードをスキャンしてください。



~ 設定可能なサフィックス・キャラクター #1 : 1つのサフィックス ID をデータ送信時に追加送信します。このコードとともに、任意のキャラクターを表す16-1 ページの3コート・バイトシーケンスを使用してください。



~ 設定可能なサフィックス・キャラクター #2 : 2番目のサフィックス・キャラクターを設定します。



~ 設定可能なサフィックス・キャラクター #3 : 3番目のサフィックス・キャラクターを設定します。



~ 設定可能なサフィックス・キャラクター #4 : 4番目のサフィックス・キャラクターを設定します。



~ 設定可能なサフィックス・キャラクター #5 : 5番目のサフィックス・キャラクターを設定します。



~ 設定可能なサフィックス・キャラクター #6 : 6番目のサフィックス・キャラクターを設定します。



~ 設定可能なサフィックス・キャラクター #7 : 7番目のサフィックス・キャラクターを設定します。



~ 設定可能なサフィックス・キャラクター #8 : 8番目のサフィックス・キャラクターを設定します。



~ 設定可能なサフィックス・キャラクター #9 : 9番目のサフィックス・キャラクターを設定します。



~ 設定可能なサフィックス・キャラクター #10 : 10番目のサフィックス・キャラクターを設定します。



\* ユーザー設定可能なサフィックスをすべてクリアする

## 特殊フォーマット



SINEKO モードを有効にする



\* SINEKO モードを無効にする



Newcode フォーマットモード A を有効にする



\* Newcode フォーマットモード A を無効にする



Newcode フォーマットモード B を有効にする



\* Newcode フォーマットモード B を無効にする



先頭の 0 をすべて削除する



\* 先頭の 0 を削除しない



MS951 CAPS Lock を有効にする



\* MS951 CAPS Lock を無効にする



HCA 解析を有効にする



HCA 解析を無効にする

## コード・フォーマット

### UPC/EAN のフォーマット



\* UPC-A チェック・デジットを送信する



UPC-A チェック・デジットを送信しない



UPC-E チェック・デジットを送信する



\* UPC-E チェック・デジットを送信しない



UPC-E を 12 桁に拡張する : UPC-E バーコードを 12 桁相当の UPC-A バーコードに拡張します。



\* UPC-E を 12 桁に拡張しない



\* 拡張 UPC E でナンバーシステムを送る



拡張 UPC E でナンバーシステムを送らない



GTIN フォーマットを有効にする



\* GTIN フォーマットを無効にする



UPC-A を EAN-13 に変換する : スキャナはバーコードの前に先頭「0」を送信して UPC-A を EAN-13 に変換します。



\* UPC-A を EAN-13 に変換しない



UPC-E に先頭「0」を送信する：このオプションは各 UPC-E バーコードの前に「0」を送信します。



\* UPC-E に先頭「0」を送信しない



EAN-8 を EAN-13 に変換する：スキャナはバーコードの前に 5 つの「0」を送信して EAN-8 を EAN-13 に変換します。



\* EAN-8 を EAN-13 に変換しない



\* UPC-A ナンバーシステムを送信する



UPC-A ナンバーシステムを送信しない



\* UPC-A MFR #を送信する



UPC-A MFR #を送信しない



\* UPC-A ITEM #を送信する



UPC-A ITEM #を送信しない



\* EAN-8 チェック・デジットを送信する



EAN-8 チェック・デジットを送信しない



\* EAN-13 チェック・デジットを送信する：スキャナは EAN-13 チェック・デジットを送信します。



EAN-13 チェック・デジットを送信しない



---

## Codabar のフォーマット



**Codabar スタート/ストップキャラクタを送信する** : 各バーコードの前後に、Codabar のスタート/ストップキャラクタを送信します。



**\* Codabar スタート/ストップキャラクタを送信しない**



**\* ノーマルの Codabar スタート/ストップキャラクタ**



**小文字の Codabar スタート/ストップキャラクタ送信を有効にする**



**CLSI 編集を有効にする** : 14 桁の Codabar タイプの長さでのみ稼働します。このオプションは、情報をホストに送信する前に CLSI タイプの編集を行います。



**\* CLSI 編集を無効にする**



**Codabar Mod-16 チェック・デジットを有効にする**



**\* Codabar Mod-16 チェック・デジットを無効にする**



**Codabar 「7-Check」 チェック・デジットを有効にする**



**\* Codabar 「7-Check」 チェック・デジットを無効にする**



**\* Codabar チェック・デジットを送信する**



**Codabar チェック・デジットを送信しない**

---

## Code 39 のフォーマット



Code 39 で Mod 43 チェック・デジットを送信する：この機能は 2-2 ページの「Code 39 で MOD 43 チェック・デジットを有効にする」のオプションと合わせて使用します。この機能の使用にはどちらのオプションも有効になっている必要があります。



\* Code 39 で Mod 43 チェック・デジットを送信しない



Code 39 スタート/ストップキャラクタを送信する：スキャナは各バーコードの前後に、Code 39 のスタート/ストップキャラクタを送信します。



\* Code 39 スタート/ストップキャラクタを送信しない



イタリアの医薬品の場合、「A」（41H）プレフィックスを送信する



\* イタリアの医薬品の場合、「A」（41H）プレフィックスを送信しない

## Code 11 のフォーマット



Code 11 チェック・デジットを送信する：このバーコードは2-5 ページの「Code 11 を有効にする」と合わせて使用した場合、Code 11 チェック・キャラクタを送信します。



\* Code 11 チェック・デジットを送信しない

## Telepen のフォーマット



Telepen ^L から E の変換を有効にする



\* Telepen ^L から E の変換を無効にする

---

## Plessey のフォーマット



**UK Plessey のチェック・デジットを送信する** : スキャナは UK Plessey チェック・デジットキャラクタを送信します。これは UK Plessey オプションとともに使用する必要があります。



**\* UK Plessey のチェック・デジットを送信しない**



**UK Plessey 特殊フォーマットを有効にする**



**UK Plessey 特殊フォーマットを無効にする**



**MSI Plessey チェック・デジットを送信する** : このオプションは、6 ページの「MSI Plessey を有効にする」オプションのうち 1 つ、または両方とともに使用します。



**\* MSI Plessey チェック・デジットを送信しない**

## 2 of 5 Code のフォーマット



**ITF で Mod 10 チェック・デジットを送信する** : スキャナは interleaved 2 of 5 (ITF) Mod 10 チェック・キャラクタを送信します。



**\* ITF で Mod 10 チェック・デジットを送信しない** : ITF で Mod 10 チェックとともに稼働します。この機能を稼働させるにはどちらも有効になっている必要があります。



**Matrix 2 of 5 チェック・デジットを送信する**



**\* Matrix 2 of 5 チェック・デジットを送信しない**



## RS232



\* RS232 モードを有効にする：スキャナは RS232 +/-12V シリアル出力を容認します。

## パリティ

パリティビット (PBIT) はデータ送信エラーのキャッチを容易にする追加データビットです。スキャナのパリティはホストのパリティと一致していなければなりません。



パリティなし



奇数パリティ：ビットの 1 の数を奇数個にするため、パリティビットの設定を 1 または 0 のどちらかに選択します。



\* 空白パリティ：パリティビットの設定を常に 0 にします。



偶数パリティ：ビットの 1 の数を偶数個にするため、パリティビットの設定を 1 または 0 のどちらかに選択します。



マークパリティ：マークパリティは常にパリティビット 1 を選択します。

## ボーレート (通信速度)



ボーレート 115200 (Voyager では使用できません)



ボーレート 57600 (Voyager では使用できません)



ボーレート 38400



ボーレート 19200



ボーレート 14400



\* ボーレート 9600



ボーレート 4800



ボーレート 2400



ボーレート 1200



ボーレート 600



ボーレート 300

## データ/ストップ・ビット



8 データビット : 各キャラクタに対して送信されたデータビットの数



\* 7 データビット



1 ストップ・ビット



\* 2 ストップ・ビット

## ハードウェア・ハンドシェーキング (制御)



RTS/CTS ハンドシェークを有効にする : Request to Send (RTS) シグナルを出力し、Clear to Send (CTS) シグナルを待機してからデータを送信します。



\* RTS/CTS ハンドシェークを無効にする



\* RTS/CTS キャラクタ : 各キャラクタの RTS シグナルを稼働/停止します。



メッセージ RTS/CTS : 最初のキャラクタ送信前に RTS を稼働し、最後のキャラクタ送信まで稼働状態を維持します。



**RTS ポラリティを反転する (RSV1)**

-12V = 稼働 +12V = 停止



\* **スタンダード RTS ポラリティ** : スタンダード RTS ポラリティを使用します。

-12V = 停止 +12V = 稼働



**CTS ポラリティを反転する (RSV2)**

-12V = 稼働 +12V = 停止

送信 OK 送信しない



\* **スタンダード CTS ポラリティ**

-12V = 停止 +12V = 稼働

送信しない 送信 OK



**RTS を稼働、CTS を待機しない (RSV3)** : 送信のため RTS を稼働しますが CTS を待機しません。



\* **RTS を稼働、CTS を待機する** : RTS を稼働し、CTS を待機します。



**RTS の前に CTS Not Present をテストする (RSV4)** : CTS が既にある場合、RTS を稼働しません。



\* **RTS の前に CTS Present をテストしない**



**DTR サポートを有効にする** : スキャナは *Data Terminal Ready* (DTR) シグナルが停止すればスキャンをストップします。



\* **DTR サポートを無効にする**



RTS カウンター切り替えを有効にする : スキャナはデコードが成功すれば RTS ラインに切り替えます。



\* RTS カウンター切り替えを無効にする



XON/XOFF ハンドシェーキングを有効にする : XOFF (ASCII 13H) を受信するとスキャナは送信を停止します。XON (ASCII 11H) を受信後、送信は再開されます。



\* XON/XOFF ハンドシェーキングを無効にする

## ソフトウェア・ハンドシェーキング (制御)



ACK/NAK を有効にする : データ送信後、ホストからの ACK (06H) または NAK (15H) 応答を待機します。ACK を受信すると、通信サイクルを完了してさらにバーコードを受け付けます。NAK を受信すると、バーコードデータの最終セットを再送信し、再び ACK/NAK を待機します。



\* ACK/NAK を無効にする



ACK/NAK の BEL/CAN をサポートする : BEL (07H) を受信すると、スキャナは 3 回ブザーを鳴らし、通信ループから退出します。CAN (18H) を受信すると、スキャナは無音で通信ループから退出します。



\* ACK/NAK の BEL/CAN を無視する : 通信ループで BEL/CAN キャラクタを無視します。



ACK/NAK タイムアウトで 5 回の再試行を有効にする : 通信ループから退出する前に、データの NAK 再送信を 5 回まで許可します。



\* ACK/NAK タイムアウトで 5 回の再試行を無効にする



5 回の NAK 再試行を有効にする : NAK を受信するとデータの再送信を 5 回まで許可します。



\* 5 回の NAK 再試行を無効にする



GLS ハンドシェーキングを有効にする : ACK 確認応答の JV を受信します。その後 ACK は許可されませんが、NAK および、有効な追加 ACK/NAK プロトコルキャラクタは許可されます。



\* GLS ハンドシェーキングを無効にする



---

## その他



**フランス語 PC 用語を有効にする** : スキャナは ASCII データキャラクタの代わりに PC タイプの make/break スキャン・コードを送信します。スキャン・コードは WYSE フランス語 PC 用語に合います。

---



\* **フランス語 PC 用語を無効にする**

---



**NCR スキャナのみ使用のコマンドを有効にする**

---



\* **NCR スキャナのみ使用のコマンドを無効にする**



## キーボード

### キーボード・エミュレーションを有効にする



キーボードウェッジのデフォルトを読み込む：キーボードウェッジ・モードのデフォルト設定を読み込みます。



スタンドアロン・キーボードエミュレーションを有効にする：外部キーボードに連結していない特殊なスタンドアロンの機種に使用します。このバーコードを読み込んでスタンドアロンモードを有効にします。スキャナはキーボード「電源オン」の情報を送信し、常時キーボード接続とみなすようハードウェアを設定します。



\* キーボードウェッジ・エミュレーションを有効にする：外部キーボードとともに使用します。バーコードデータがないとき、標準 PC キーボードでの通信を許可するため、ウェッジモードで送信します。

### 各国 / スキャン・コード表の選択



\* 米国キーボード



スイスキーボード



スペインキーボード



イタリアキーボード



ドイツキーボード



フランスキーボード



英国キーボード



ベルギーキーボード



日本キーボード



IBM 4700 ファイナンシャルキーボード



スウェーデン/フィンランドキーボード



スロベニアキーボード

## キーボード/システム・タイプ



\* AT キーボード : IBM PS/2 および互換機種 50、55、60、80 を含みます。



XT キーボード : Voyager の特別ファームウェアです。



PS/2 キーボード : IBM PC および互換機種 30、70、8556 を含みます。



端末キーボード・エミュレーションを有効にする



モード1用 XT キーボードを有効にする : Voyager の特別ファームウェアです。



モード2用 XT キーボードを有効にする : Voyager の特別ファームウェアです。

---

## ダム端末の選択

Note: 以下の端末にはカスタム・ケーブルが必要になる場合があります。



IBM 端末キーボード



予備端末キーボード#2



予備端末キーボード#3



予備端末キーボード#4



予備端末キーボード#5



予備端末キーボード#6



予備端末キーボード#7



予備端末キーボード#8



小文字ロック・オン：データをすべて小文字で送信します。



\* 小文字ロック・オフ



スペイン語キーボードの Ñ の代用：2つのキャラクタを以下のように代用します。#→Ñ、^→ñ



\* スペイン語キーボードの Ñ の代用なし

## 特殊キーボード機能



**Make コードのみ送信する**：機種によってはご利用いただけません。



\* **Make/Break コードを送信する**：機種によってはご利用いただけません。



\* **FOH Break コードを送信する**：スキャナは Break コードのシーケンスで FOH を送信します。



**FOH Break コードを送信しない**



**クリーンアップ・ビットを送信する**：特定の NEC のコンピュータに使用します。



\* **クリーンアップ・ビットを送信しない**



**Alt モードを有効にする**：下記「ALT モードを有効にする（ノーマル）」の記載を参照してください。



\* **Alt モードを無効にする**：注意：ホストのソフトウェアアプリケーションが右 Alt キーを「ホット」キーとして使用している場合、Alt モードは無効にしてください。

† 以下の設定は上記の Alt モードが有効の場合にのみ適用されます。



\* **Alt モードを有効にする（ノーマル）†**  
スキャナは次のキーボードシーケンスを繰り返します。「Alt キーを押し、任意のキャラクタに対応する 3 桁の 10 進数をタイプします。」



\* **Alt モードを有効にする（高度）†**  
スキャナは次のキーボードシーケンスを繰り返します。「Alt キーを押し、任意のキャラクタに対応する 4 桁の 10 進数をタイプします。」



**自動検知モード（AT/PS2）を有効にする**：自動的に Caps Lock の状態を検知します。



\* **自動検知モード（AT/PS2）を無効にする**



Caps Lock を有効にする (XT)



\* Caps Lock を無効にする (XT)



キーボードデータとして数字を送信する：すべてのデータはキーボードで入力されたものとみなして送信されます。



\* ノーマルデータとして数字を送信する



予備の機能を有効にする



\* 予備の機能を無効にする



\* 拡張キー・コード送信に拡張 ASCII を使用する：F1 や F2 などの PC キーボード・キーの送信に拡張 ASCII キャラクタを使用します。



拡張 ASCII>として拡張 ASCII キャラクタを使用する：Alt モード経由で拡張 ASCII コードを送信します。



\* キャラクタ KB 禁止



メッセージ KB 禁止



右 Alt キー・シーケンスを有効にする



右 Alt キー・シーケンスを無効にする



LaCaixa 特殊キーボード・プレフィックス&サフィックス・スキャンコードを有効にする



\* LaCaixa 特殊キーボード・プレフィックス&サフィックス・スキャンコードを無効にする

## インタースキャン・コードの遅延



\* **インタースキャン・コード遅延 800 ミリ秒**：指定された時間は個々の 11 ビットのスキャン・コードの間隔を表します。特定の PC キーボード BIOS を操作する場合、このパラメータを調整する必要があります。



**インタースキャン・コード遅延 7.5 ミリ秒**：指定された時間は個々の 9 ビットのスキャン・コードの間隔を表します。特定の PC キーボード BIOS を操作する場合、このパラメータを調整する必要があります。



**インタースキャン・コード遅延 15 ミリ秒**：指定された時間は個々の 11 ビットのスキャン・コードの間隔を表します。特定の PC キーボード BIOS を操作する場合、このパラメータを調整する必要があります。



~ **可変インタースキャン・コード遅延ミリ秒**：1-1 ページのマルチ・コード方式を参照してください。100 ミリ秒単位で設定できます。



---

## コントロール・セット

通常、スタンダード・バーコードは ASCII キャラクタセットのみエンコードします。IBM 互換キーボードでは、ファンクションキー、矢印キー、その他多くの拡張キーは ASCII キャラクタに変換されません。拡張キーをバーコード化する方法の 1 つとして、特定の ASCII コントロールキャラクタがバーコードのストリームにある場合、拡張キーコードを代用して使う方法があります。コントロールセットは ASCII (HEX) セットの特殊な変換となります。

### コントロール・セット #1



コントロール・セット#1 を有効にする



\* コントロール・セット#1 を無効にする

ASCII (HEX)	ASCII コントロール	拡張キー
00H	Null	数字キーパッド+ (プラス記号)
01H	SOH	Num Lock
02H	STX	下向き矢印
03H	ETX	数字キーパッド- (マイナス記号)
04H	EOT	Insert
05h	ENQ	Delete
06H	ACK	システムリクエスト
07H	BEL	→ (右矢印)
08H	BS	← (左矢印)
09H	TAB	Tab
0AH	LF	Caps Lock
0BH	VT	Shift Tab
0CH	FF	左 Alt
0DH	CR	Enter
0EH	SO	左 Control
0FH	SI	上向き矢印
10H	DLE	F1
11H	DC1	F2
12H	DC2	F3
13H	DC3	F4
14H	DC4	F5
15H	NAK	F6
16H	SYN	F7
17H	ETB	F8
18H	CAN	F9
19H	EM	F10
1AH	SUB	Home
1BH	ESC	Esc
1CH	FS	Page Up
1DH	GS	Page Down
1EH	RS	Print Screen
1FH	US	End

## OCIA



**OCIA モードを有効にする**：通信要件が OCIA（光結合インターフェース）の場合、このオプションを選択します。ホストはこのシリアルインターフェースを記録します。



**OCIA デフォルトを読み込む**



**DTS/Siemens を有効にする**



\* **DTS/Nixdorf を有効にする**



**NCR-S を有効にする**



**NCR-F を有効にする**



\* **OCIA NCR-S モードで送信中に非 UPC コードを持つキャラクタカウントを送信する**



**OCIA NCR-S モードで送信中に非 UPC コードを持つキャラクタカウントを送信しない**



## ライトペン・パラメータ



ライトペンモードを有効にする：スキヤナがライトペンの代わりに使用される場合、このオプションを選択します。スキャンされた各バーコードにライトペンエミュレーションを行います。



\* 高いバー



高いスペース



Code 39 として送信する：すべてのバーコードはデコードされ、Code 39 のバーコードとして送信されます。



\* スキャンされたままで送信する：すべてのバーコードはデコードされ、そのままのシンボルで送信されます。



ライトペンの電源をチェックする：スキヤナはデータ送信の前に有効な電源電圧を待機します。



\* ライトペンの電源をチェックしない



反転 IDLE/Extra の切り替えを有効にする：スキヤナはブザーを鳴らし、デコーダーをチェックする追加データパルスでライトペン・データラインに切り替えます。



\* 反転 IDLE/Extra の切り替えを無効にする



RTS ラインの事前送信切り替えを有効にする



\* RTS ラインの事前送信切り替えを無効にする

---

## 細エレメント幅の設定



**10x 細エレメント・ボーダー**：10x ボーダーを使用したライトペン/Wand エミュレーションの送信を許可します。



\* **50x 細エレメント・ボーダー**：50x ボーダーを使用したライトペン/Wand エミュレーションの送信を許可します。



\* **1 ミリ秒細エレメント幅**：1 ミリ秒の細エレメント幅でライトペン/Wand エミュレーションの送信を許可します。



**60 マイクロ秒細エレメント幅**



**100 マイクロ秒細エレメント幅**



**500 マイクロ秒細エレメント幅**



~ **可変の細エレメント幅**：6 マイクロ秒単位で最小 X 寸法を設定します。このバーコードをスキャンし、続いて16-1 ページの3桁のコート・バイトシーケンスをスキャンします。

## IBM® 46xx の設定

### IBM ポート



IBM 46xx の通信を有効にする : IBM 46xx SIOC/RS485 の通信に使用します。スキャナによってはこのインターフェースに対応していません。適切なインターフェース・ボードが必要です。



IBM 46xx のデフォルトを読み込む : IBM 46xx システムのデフォルトフォーマット設定を読み込みます。



IBM ポート 17B 3687-2 イン・カウンター



IBM ポート 5B 1520 HH レーザー



\* IBM ポート 9B 4500 CCD HH BCR1



IBM ポート 9B 4501 CCD HH BCR2



\* IBM 46xx と RS232 の CTS 選択を無効にする



CTS = -12V のとき IBM 46xx の通信を有効にし、CTS = +12V のとき RS232 の通信を有効にする

### IBM 予備コード



IBM 予備#1



IBM 予備#2



IBM 予備#3



IBM 予備#5





## USB



USB インターフェースを有効にする◆



低速の USB デフォルトを有効にする◆

- ◆ これらの機能は低速 USB 装置が内蔵されていないハネウェル・スキャナに限定されます。以下のバーコードは MX009 経由で通信ができるようにスキャナを設定します。



内蔵の高速 USB キーボード・エミュレーション・デフォルトを読み込む



内蔵の高速 USB IBM/OEM デフォルトを読み込む



内蔵の低速 USB OPOS デフォルトを読み込む：特殊なソフトウェアバージョンの搭載された内蔵低速 USB インターフェースのスキャナに限定されます。



IBM OEM スキャナ 4B00h ハンドヘルド：高速 USB のみ



IBM OEM スキャナ 4A00h フラットベッド：高速 USB のみ



\* USB キーボード・エミュレーションモードを有効にする

Note: スキャナを再設定中に「デフォルト」バーコードをスキャンすると、スキャナの設定はデフォルト設定の「USB キーボード・エミュレーションモード」に戻ります。適切なシリアル・エミュレーションモードを有効にするには、15-2ページの「単方向」もしくは「双方向 USB シリアル・エミュレーションモード」バーコードを再びスキャンしてください。



**単方向 USB シリアル・エミュレーションモードを有効にする**

ハネウエル 9500/5100/4125 クラスの製品で単方向 USB シリアル・エミュレーションモードを有効にします。

ハネウエル Focus/Imager クラスの製品で双方向 USB シリアル・エミュレーションモードを有効にします。



**双方向 USB シリアル・エミュレーションモードを有効にする**

ハネウエル 9500/5100/4125 クラスの製品で双方向 USB シリアル・エミュレーションモードを有効にします。

Focus/Imager クラスの製品では対応していません。



**バーコード ID を有効にする**



**バーコード ID を無効にする**



**USB 予備コード#1 を有効にする**



**USB 予備コード#1 を無効にする**



**USB 予備コード#2 を有効にする**



**USB 予備コード#2 を無効にする**



**USB デフォルトを記憶する**



**Aux デフォルトを記憶する**



**IBM 1520 コードフラッグ・エミュレーションを有効にする** : UPC コード ID と ITF コード ID は同じですが、その他のコード ID は Code39 (IBM OEM スキャナモード) として送信されます。



**IBM 1520 コードフラッグ・エミュレーションを無効にする**



**バーコード ID を有効にする**



**バーコード ID を無効にする**



**USB 予備コード #1 を有効にする**



**USB 予備コード #1 を無効にする**



**USB 予備コード #2 を有効にする**



**USB 予備コード #2 を無効にする**



Sears USB デフォルト



Sears Aux デフォルト



IBM 1520 コード・フラッグ・エミュレーションを有効にする – UPC コード ID や ITF コード ID が同様に残りますが、それ以外全てのコード ID は Code 39 (IBM OEM スキャナ・モード) と同じように送信されます。



IBM 1520 コード・フラッグ・エミュレーションを無効にする。



## コート・バイトの使用法

以下のコート・バイトを使用する機能を設定する場合は、スキャナを「設定モード」にする必要があります。設定サイクルを開始する前に、上の「設定モード開始／終了」バーコードをスキャンしてください。

例： ユーザー設定が可能なプレフィックス／サフィックスのキャラクタは、ASCII キャラクタに相当する 3 桁の 10 進数をコート・バイト・バーコードとともに適切なキャラクタロケーションにスキャンして、スキャナに保存できます。

プリフィクスとしてアスタリスク (\*) を追加するには、次の順番でバーコードをスキャンしてください。

- |                     |            |
|---------------------|------------|
| 1. 「設定モード開始／終了」     | (ブザー音 3 回) |
| 2. 「設定可能なプレフィックス#1」 | (ブザー音 1 回) |
| 3. 「コート・バイト 0」      | (ブザー音 1 回) |
| 4. 「コート・バイト 4」      | (ブザー音 2 回) |
| 5. 「コート・バイト 2」      | (ブザー音 3 回) |
| 6. 「設定モード開始／終了」     | (ブザー音 3 回) |

### コート・バイト 0-9



コート・バイト 0



コート・バイト 1



コート・バイト 2



コート・バイト 3



コート・バイト 4



コート・バイト 5



コート・バイト 6



コート・バイト 7



コート・バイト 8



コート・バイト 9

## 予備コード



~予備コードを有効にする：この機能の情報に関してはハネウエルにご連絡ください。



~予備コードを無効にする

## コード・タイプ表

コート・バイト	コード・タイプ
004	UPC-A
002	UPC-E
003	EAN-8
005	EAN-13
080	Code 39
081	Codabar
082	Interleaved 2 of 5
083	Code 128
084	Code 93
091	MSI Plessey
092	Code 11
093	Airline 2 of 5 (15 桁)
094	Matrix 2 of 5
095	Telepen
096	UK Plessey
099	TRI-OPTIC
098	Standard 2 of 5
097	Airline (13 桁)

## ASCII 参照表

HEX 値	10 進値 / コード・バイト値	キャラクタ	対応するキーボード操作
00	000	NUL	@
01	001	SOH	A
02	002	STX	B
03	003	ETX	C
04	004	EOT	D
05	005	ENQ	E
06	006	ACK	F
07	007	BEL	G
08	008	BS	H
09	009	HT	I
0A	010	LF	J
0B	011	VT	K
0C	012	FF	L
0D	013	CR	M
0E	014	SO	N
0F	015	SI	O
10	016	DLE	P
11	017	DC1	Q
12	018	DC2	R
13	019	DC3	S
14	020	DC4	T
15	021	NAK	U
16	022	SYN	V
17	023	ETB	W
18	024	CAN	X
19	025	EM	Y
1A	026	SUB	Z
1B	027	ESC	[
1C	028	FS	\

HEX 値	10 進値 / コート・バイト値	キャラクタ	対応するキーボード操作
1D	029	GS	^
1E	030	RS	_
1F	031	US	スペース、blank
20	032	SP	
21	033	!	
22	034	"	
23	035	#	
24	036	\$	
25	037	%	
26	038	&	
27	039	'	アポストロフィ
28	040	(	
29	041	)	
2A	042	*	
2B	043	+	
2C	044	,	コンマ
2D	045	-	マイナス
2E	046	.	ピリオド
2F	047	/	
30	048	0	数字 0
31	049	1	数字 1
32	050	2	
33	051	3	
34	052	4	
35	053	5	
36	054	6	
37	055	7	
38	056	8	
39	057	9	
3A	058	:	
3B	059	;	



HEX 値	10 進値／ コート・バイト値	キャラクタ	対応するキーボード操作
3C	060	<	以下
3D	061	=	
3E	062	>	以上
3F	063	?	
40	064	@	Shift P
41	065	A	
42	066	B	
43	067	C	
44	068	D	
45	069	E	
46	070	F	
47	071	G	
48	072	H	
49	073	I	文字 I
4A	074	J	
4B	075	K	
4C	076	L	
4D	077	M	
4E	078	N	
4F	079	O	文字 O
50	080	P	
51	081	Q	
52	082	R	
53	083	S	
54	084	T	
55	085	U	
56	086	V	
57	087	W	
58	088	X	
59	089	Y	

HEX 値	10 進値／ コート・バイト値	キャラクタ	対応するキーボード操作
5A	090	Z	
5B	091	[	Shift K
5C	092	\	Shift L
5D	093	]	Shift M
5E	094	^	à、Shift N
5F	095	_	♣、Shift O、アンダースコア
60	096	'	アクセント記号
61	097	a	
62	098	b	
63	099	c	
64	100	d	
65	101	e	
66	102	f	
67	103	g	
68	104	h	
69	105	i	
6A	106	j	
6B	107	k	
6C	108	l	
6D	109	m	
6E	110	n	
6F	111	o	
70	112	p	
71	113	q	
72	114	r	
73	115	s	
74	116	t	
75	117	u	
76	118	v	
77	119	w	
78	120	x	

HEX 値	10 進値/ コート・バイト値	キャラクタ	対応するキーボード操作
79	121	y	
7A	122	z	
7B	123	{	
7C	124		縦スラッシュ
7D	125	}	alt モード
7E	126	~	(alt モード)
7F	127	DEL	Delete、Rubout

## 拡張キー・コード参照表

キー	AT スキャン・ コード	PS2 スキャン・ コード	3151	プレフィックス/サフィックス値 Hex = 10 進値
↑	75H	48H	63H	80H = 128
↓	72H	50H	60H	81H = 129
→	74H	4DH	6AH	82H = 130
←	6BH	4BH	61H	83H = 131
Insert	70H	52H	67H	84H = 132
Delete	71H	53H	64H	85H = 133
Home	6CH	47H	6EH	86H = 134
End	69H	4FH	00H	87H = 135
Page Up	7DH	49H	00H	88H = 136
Page Down	7AH	51H	00H	89H = 137
右 Alt	11H	38H	00H	8AH = 138
右 Ctrl	14H	1DH	39H	8BH = 139
予備	00H	00H	00H	8CH = 140
予備	00H	00H	00H	8DH = 141
数字キーパッド Enter	5AH	1CH	79H	8EH = 142
数字キーパッド /	4AH	35H	00H	8FH = 143
F1	05H	3BH	07H	90H = 144
F2	06H	3CH	0FH	91H = 145
F3	04H	3DH	17H	92H = 146
F4	0CH	3EH	1FH	93H = 147
F5	03H	3FH	27H	94H = 148
F6	0BH	40H	2FH	95H = 149
F7	83H	41H	37H	96H = 150

キー	AT スキャン・コード	PS2 スキャン・コード	3151	プレフィックス/サフィックス値 Hex = 10 進値
F8	0AH	42H	3FH	97H = 151
F9	01H	43H	47H	98H = 152
F10	09H	44H	4FH	99H = 153
F11	78H	57H	56H	9AH = 154
F12	07H	58H	5EH	9BH = 155
数字キーパッド+	79H	4EH	00H	9CH = 156
数字キーパッド-	7BH	4AH	7CH	9DH = 157
数字キーパッド*	7CH	37H	00H	9EH = 158
Caps Lock	58H	3AH	14H	9FH = 159
Num Lock	77H	45H	00H	A0H = 160
左 alt	11H	38H	00H	A1H = 161
左 Ctrl	14H	1DH	11H	A2H = 162
左 Shift	12H	2AH	12H	A3H = 163
右 Shift	59H	36H	59H	A4H = 164
Print Screen	Multiple	00H	00H	A5H = 165
Tab	ODH	OFH	0DH	A6H = 166
Shift Tab	8DH	8FH	65H	A7H = 167
Enter	5AH	1CH	5AH	A8H = 168
ESC	76H	01H	08H	A9H = 169
左 ALT Make	11H	36H	00H	AAH = 170
左 ALT Break	11H	B6H	00H	ABH = 171
左 CTRL Make	14H	1DH	00H	ACH = 172
左 CTRL Break	14H	9DH	00H	ADH = 173
*左 ALT + 1 キャラクタ	11H	36H	00H	AEH = 174
*左 Ctrl + 1 キャラクタ	14H	1DH	00H	AFH = 175
*Send			58H	C0H = 192
Clear			6FH	C1H = 193
Jump			76H	C2H = 194
Send Line			7EH	C3H = 195
Erase EOF			6DH	C4H = 196
Send - Make のみ			58H	C5H = 197

\*例 :

1 桁目の設定可能なプレフィックス=174

2 桁目の設定可能なプレフィックス=065

スキャナは<左 ALT Make>「A」<左 ALT Break>を送信します。

# MS9520 Voyager<sup>®</sup> および MS9540 VoyagerCG<sup>®</sup> シリーズ

## 稼働範囲

以下のバーコードを使用して、スキャン・フィールドに対象物を検知した場合の赤外線（IR）センサの稼働範囲を選択します。



\* スタンド上で長い範囲



スタンド上で短い範囲



\* スタンド取り外し状態で長い範囲



スタンド取り外し状態で短い範囲

## スタンド・スキャン・モード



スタンド上で短波スキャン：スタンド取り付け状態でスキャンする場合、スキャナは短波赤外線でのみバーコードを受け付けます。



\* スタンド上でノーマル・スキャン

## CodeGate<sup>®</sup>の状態

下記のバーコードはボタン機能の操作に使用します。

Note: 以下の機能は MS5145 のすべてのバージョンに対応しているわけではありません。



スタンド上で CodeGate 稼働



\* スタンド上で CodeGate 停止



\* スタンド取り外し状態で CodeGate 稼働



スタンド取り外し状態で CodeGate 停止

---

## レーザー / スキャン・モード



\* **ノーマル・スキャン** : 赤外線がバーコードを検知した後、レーザーが稼働します。レーザーは約 3 秒から 10 秒間稼働状態を維持します。



**点滅スキャン** : 赤外線がバーコードを検知した後、レーザーが稼働します。レーザーは約 60 秒間オンオフを繰り返して点滅します。



**連続点滅スキャン** : レーザーは点滅を繰り返し、赤外線は非稼働状態となります。この機能は VoyagerPDF シリーズでは利用できません。



**カスタム (1 度限り) スキャン** : レーザーは一度デコードに成功した後で稼働します。



**マニュアル稼働モードを有効にする** : レーザーは CodeGate ボタンが押されると稼働します。



\* **ノーマル・タイムアウト (ボタンで稼働)**



**0.5 秒タイムアウト (ボタンで稼働)**

---

## 同一シンボル・タイムアウト

MS5145 Eclipse、MS9524 または MS9544 VoyagerPDF を使用している場合、7-3ページを参照してください。



同一シンボル・タイムアウトなし



1000 ミリ秒の同一シンボル・タイムアウト



\* 875 ミリ秒の同一シンボル・タイムアウト



750 ミリ秒の同一シンボル・タイムアウト



625 ミリ秒の同一シンボル・タイムアウト



500 ミリ秒の同一シンボル・タイムアウト



375 ミリ秒の同一シンボル・タイムアウト



250 ミリ秒の同一シンボル・タイムアウト



同一シンボル・タイムアウトが無限

---

## MS9520-00 および MS9540-00 レーザー・エミュレーション・モード

MS9520-00 および MS9540-00 は、工場出荷時にデフォルトでレーザー・エミュレーション・インターフェースが有効になっています。

スキャナを再設定中にデフォルトを呼び戻す場合は、以下のバーコードをスキャンしてレーザー・エミュレーション・インターフェースを再び有効にしてください。この機能は MS9520-00 および MS9540-00 のみ対応しています。

### HH レーザー・エミュレーションを有効にする



ホストコントロールのレーザー・エミュレーションが必要な場合は、上記の「HH レーザー・エミュレーションを有効にする」をスキャンした後で、次のバーコードをスキャンしてください。

### ホストコントロールのレーザー・エミュレーションを有効にする



ノーマルのレーザー・エミュレーション・モーター・アイドル状態



反転レーザー・エミュレーション・モーター・アイドル状態



## MS9524 および MS9544 VoyagerPDF® シリーズ



\* PDF を有効にする



PDF を無効にする



\* 音声標識を有効にする



音声標識を無効にする

### PDF CodeGate の状態



スタンド上で PDF CodeGate を有効にする



\* スタンド上で PDF CodeGate を無効にする



スタンド取り外し状態で PDF CodeGate を有効にする



\* スタンド取り付け状態で PDF CodeGate を無効にする

### MicroPDF および合成コードの取り扱い



Micro PDF を有効にする：合成シンボルのスキャンを許可します。（PDF 417 はデフォルトで有効）



\* Micro PDF を無効にする



\* 2次元 GS1 Databar の連結を有効にする : 2次元の部分のスキャンせず、1次元 GS1Databar を送信します。



2次元 GS1 Databar の連結を無効にする



UPC/EAN の連結を有効にする : UPC/EAN のシンボルと 2次元合成の構成要素とを連結してから送信します。



\* UPC/EAN の連結を無効にする



\* Code 128 の連結を有効にする : 2次元の部分のスキャンせず、1次元 Code 128 を送信します。



Code 128 の連結を無効にする



\* 1次元 PDF の連結を有効にする : 1次元の部分のスキャンせず、PDF-417 の 2次元部分を送信します。



1次元 PDF の連結を無効にする



\* 1次元 UPDF の連結を有効にする : 1次元の部分のスキャンせず、MicroPDF の 2次元部分を送信します。



1次元 UPDF の連結を無効にする



\* ノーマルの合成 Xmit : 1次元と 2次元の合成の構成要素部分を常に別々に送信します。



Xmit 合成の分離 : 1次元と 2次元の合成の構成要素部分を別々に送信します。



EAN-128 エミュレーションを有効にする : UCC/EAN128 プロトコルを送信目的で使用します。



\* EAN-128 エミュレーションを無効にする

同一シンボル・タイムアウトについては、7-3ページを参照してください。

## MS9535 VoyagerBT<sup>®</sup>

MS9535 がその他の Bluetooth デバイス（000CA700118 のように、アドレスが FNC3 で始まらず、通常の 12 桁の hex 値を持つデバイス）のクライアントとして稼働している場合、まず「Bluetooth アドレス入手」のコードをスキャンし、次にそのデバイスのアドレスバーコードをスキャンしてください。

### BT アドレスを入手



「Bluetooth サービスの供給」バーコードをスキャンし、MS9535 をサービスモードにしてください。このモードでは、Bluetooth が使用可能な他のデバイスがスキャナへの接続を開始できるようになります。

### BT サービスの供給



**Bluetooth ピンが必要**：Bluetooth が使用可能なデバイスと通信接続を開始するには、MS9535 は有効な Bluetooth ピンが必要です。



\* **Bluetooth ピン不要なし**



**Bluetooth ピンのデフォルト値**：デフォルトのピン ID はシリアルナンバーの最後の 4 桁です。



**次のバーコードが Bluetooth ピン**：この機能が有効になると、スキャナは次にスキャンされるバーコードを Bluetooth ピン ID として保存します。Bluetooth ピン ID は数値で 4 桁から 16 桁でなければなりません。ピン ID を使用するには上記の「Bluetooth ピンが必要」のバーコードをスキャンする必要があります。



**Bluetooth アドレスの送信を有効にする**



**Bluetooth ソフトウェアバージョンの送信を有効にする**



**1 分間でスリープ**：レーザーが 1 分間停止状態を継続した後にスキャナはスリープモード（パワーセーブ）に入ります。



**2 分間でスリープ**：レーザーが 2 分間停止状態を継続した後にスキャナはスリープモード（パワーセーブ）に入ります。



**5分間でスリープ**：レーザーが5分間停止状態を継続した後に、スキャナはスリープモード（パワーセーブ）に入ります。



**10分間でスリープ**：レーザーが10分間停止状態を継続した後に、スキャナはスリープモード（パワーセーブ）に入ります。



\* **クレードル上でのスキャンを有効にする**



**クレードル上でのスキャンを無効にする**



**スタンド上でのエラー・音声インジケータを有効にする**：Bluetooth スキャナがスタンドに置かれた状態であるか、またはクレードル上でバッテリーターミナルに接続していない場合、音声インジケータを稼働します。



\* **スタンド上でのエラー・音声インジケータを無効にする**



\* **クレードル LED を有効にする**



**クレードル LED を無効にする**



**レンジゲートを有効にする**：Bluetooth 接続が中断された場合、スキャンしたバーコードを RAM に保存します。



\* **レンジゲートを無効にする**



**Bluetooth テストを有効にする**：クレードルは所定の接続情報（KO、OK など）を表示します。

ハネウエルの担当者に指示されない限り、この機能は有効にしないでください。



\* **Bluetooth テストを無効にする**

## MS9535-5M VoyagerBT



**インベントリー・モードを有効にする**：スキャンされたバーコードデータはスキャナの拡張メモリベースに格納されます。スキャナが Bluetooth クレードルに戻されたらデータは送信されます。

*Note:*バーコードをスキャンする際に、メモリベースがフルで格納できない場合、特別なブザー音が鳴ります。その場合メモリを空にするためスキャナを Bluetooth クレードルに戻してください。



\* **インベントリー・モードを無効にする**



\* **自動クレードル送信**：スキャナが Bluetooth クレードルに戻されたらすべてのバーコードデータは自動的に送信されます。



**クレードル送信なし**：スキャナが Bluetooth クレードルに戻されても、スキャナはバーコードデータを自動送信しません。



\* **インベントリー-FIFO で送信**：データは先入れ先出しで送信されます。



**インベントリー-LIFO で送信**：データは後入れ先出しで送信されます。



**インベントリー・ブザーを有効にする**：バーコードが送信されるたびにブザーが鳴ります。データ送信が終わったら特別な音声インジケータが鳴ります。



\* **インベントリー・ブザーを無効にする**



\* **送信/入力カウンターなし**



**送信/入力カウンター**：バーコードデータとともに送信されるオプション・フィールドで、全部のバッファの送信に要した送信数を示します。



**インベントリーの記録をクリアする**：メモリに保存されたバーコードデータをすべてクリアします。



**自動記録消去を有効にする**：保存された記録が送信されたらインベントリー・バッファの保存記録を自動的にクリアします。



**\* 記録を保持する**



**最後の記録を削除**：最後に記録されたバーコードを削除します。

「送信数量フィールド」が有効の場合、スキャンされた数量コードはそれぞれ独自のフィールドを持ちます。「最後の記録を削除」バーコードをスキャンするとスキャン済み最後の数量コードが消去されます。

例：数量 103（数量 1、数量 0、数量 3）がスキャンされたが、数量 10 が適切な場合

1. 「最後の記録を削除」バーコードをスキャンします。
2. 数量 3 のコードが削除され、数量 10 が保存されます。



**すべての記録を送信する**：保存されたデータ記録をすべて送信します。



**記録カウンターを送信する**：記録の数と現在保存されたバーコードの現在の数をスペースで区切った 5 桁の数として送信します。



**数量フィールドを送信する**：最後にスキャンしたアイテム（バーコード）の数量フィールドを追加します。この機能を有効にすると、ユーザーは最後にスキャンされたアイテム（バーコード）について 1 から 9999 までを入力できます。（詳細は 3 ページのインベントリー数量バーコードを参照してください）



**\* 数値フィールドを送信しない**

---

## インベントリー数量バーコード\*\*

以下のインベントリー数量バーコードにより、ユーザーは、スキャンされた最後のアイテム（バーコード）について数量 1 から 9999 までを入力できます。アイテムのバーコードデータは「数量」が示す数だけ再送信されます。

例：

1. アイテムのバーコードをスキャンします。（ABCD など）
2. 「数量 1」のバーコードをスキャンします。
3. 「数量 0」のバーコードをスキャンします。
4. ABCD バーコードは 10 回送信されます。



数量 0



数量 1



数量 2



数量 3



数量 4



数量 5



数量 6



数量 7



数量 8



数量 9

\*\* この機能を使用するために20-2ページの「送信数量フィールド」を有効にしてください。





## IS4125 / IS4225 スキャン・エンジン



古いシリアルプログラムを無効にする



古いシリアルプログラムを有効にする



TTL UART を有効にする



非バッファ TTL UART を有効にする



検知および通知モードを有効にする



**Cunningham デフォルト**：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると Cunningham デフォルトが読み込まれ、有効になります。



デフォルト

同一シンボル・タイムアウトについては、7-3ページを参照してください。



## IS4823 および IS4825 スキャン・エンジン

### 操作モード

#### アクティベーション・モード



\* **外部トリガーでスキャンを開始する** – 外部の I/O ピンを使用してスキャン・サイクルを有効にします。I/O シグナルにおける高値から低値への移行を使用してスキャンを有効にします。シグナルは高値で無効にし、次に続くスキャン・サイクルの為、再起動する必要があります。スキャン・サイクルは、初期設定時間（2 秒）、可変時間、I/O シグナルが低値から高値へ無効になる時、またはバーコードがスキャンされ送信されている時に基づいて終了します。



**<DC2>キャラクタを受信してスキャンを開始する** – <DC2>キャラクタを受信することでスキャン・サイクルを開始します。スキャン・サイクルは初期設定時間（2 秒）、可変時間、またはバーコードがスキャンされ送信される時に基づいて終了します。



**D/E を使用してスキャンを開始する** – 「E」キャラクタを受信することでスキャン・サイクルを開始します。初期設定時間（2 秒）、設定された可変レーザー・タイムアウト、またはバーコードをスキャンして送信する際に出される「D」キャラクタの受信に基づいてスキャン・サイクルを終了します。



**アドレスを使用してスキャンを開始する** – 設定されたアドレス・キャラクタを使用してスキャンを開始します。初期設定時間（2 秒）、設定可能な可変レーザー・タイムアウト、またはバーコードをスキャンして送信する際に基づいてスキャン・サイクルは終了します。



~ **アドレス・キャラクタの設定** – スキャンの開始を意味するキャラクタを16-3ページのASCII リフェレンス・テーブルから選択し、16-1ページのコート・バイトとこのバーコードを組み合わせて設定してください。

## アクティベーション・モード 機能



~ 可変のレーザー・タイムアウトをオンにする – タイムアウト・インクリメントを決定し、16-1ページのコード・バイトとこのバーコードを組み合わせ設定してください。設定可能なタイム・インクリメント（1秒インクリメント）がスキャンのレーザーがオンになる時間です。



フルレーザー・サイクルをオンにする – バーコードをスキャンして送信する際でもスキャン・サイクルの間フルにレーザーを点灯します。



点滅モード – 選択されたアクティベーション・トリガーが検知されると、レーザーがオンになります。約 30 秒間、レーザーはオンとオフを繰り返します。



レーザー・タイムアウト時に NO READ メッセージを送信する – バーコードのスキャンがないままスキャン・サイクルが終了してしまった場合、NO READ メッセージをスキャン・サイクルの終了と同時に送信します。



レーザー・タイムアウト時に NO READ メッセージを送信しない



NO READ を送信する間に LED を起動する – NO READ メッセージと一緒に LED を出力します。



NO READ を送信する間に LED を起動しない



RTS No Read パルスを有効にする – NO READ メッセージの送信後に設定可能な RTS パルス幅を送信する。



RTS NO READ パルスを無効にする



**検知・通知モード（外部トリガーの監視）** – デフォルトのアクティベーション・モードで使用される外部 I/O ピンをレーザー・サイクルが未活動の間、監視します。I/O が活動する際には<SI>を、未活動の際は<SO>を送信します。スキャン・アクティベーション・サイクルが一旦開始すると、スキャン・サイクルが終了するまで、実際の I/O レベルに関わらず、外部 I/O の監視状況を維持します。The external I/O pin used in the default activation mode is monitored during the inactive laser cycles. An <SI> is transmitted when the I/O is active and an <SO> when it is inactive. Once the scanning activation cycle is started, the external I/O monitoring status is maintained until the scanning cycle is terminated regardless of the actual I/O level.

### 連続点滅モード



**連続点滅モード** – 通常のスキャナ操作時にスキャナのレーザーをオンとオフを連続して繰り返し、スキャン・サイクルもオンとオフを繰り返します。バーコードがスキャンされ送信されると、スキャナがデフォルトモードの状態と同じバーコードを複数回スキャンしないよう、スキャン・サイクルの間中、同一シンボル・タイムアウトを維持します。The scanner will continuously blink on and off, turning the scanning cycle on and off for all normal scanner operations.

If a bar code is scanned and transmitted, the same symbol timeout is maintained throughout the cycle preventing additional scans of the same bar code when the scanner is in default mode.

### スリープ・モード



~ **スリープ・モード** – 電力節約モードを 1 秒から設定できます。16-1 ページのコート・バイトとこのバーコードを組み合わせで設定してください。



## その他機能

### カスタム・デフォルト

ハネウエルは OEM アプリケーションに対応したスキャナも製造しています。それらのスキャナはハネウエルの工場出荷デフォルトとは異なったデフォルト設定を使用している場合があります。以下のバーコードをスキャンすると、ハネウエルのデフォルトに再設定できます。



**工場出荷デフォルトを有効にする**：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると、ハネウエルの工場出荷デフォルトが読み込まれ、有効になります。



デフォルト



**Ruby Verifone デフォルト**：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると、Ruby Verifone のデフォルトが読み込まれ、有効になります。



**RCH**：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると、RCH のデフォルトが読み込まれ、有効になります。



**Sanyo**：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると、Sanyo のデフォルトが読み込まれ、有効になります。



**Gilbarco**：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると、Gilbarco のデフォルトが読み込まれ、有効になります。



**ALT デフォルト**：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると、Alt のデフォルトが読み込まれ、有効になります。



**LaCaixa カスタムキーボード・デフォルト**：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると、LaCaixa のデフォルトが読み込まれ、有効になります。



**ABACAB デフォルト**：このコードに続いて「デフォルト」コードをスキャンすると、ABACAB のデフォルトが読み込まれ、有効になります。

---

## シリアル・プログラム・モード

シリアル・プログラム・モードでは、すべてのコマンドは STX (02 Hex) と ETX (03 Hex) で囲まれていなければなりません。

デフォルト呼び戻しは以下の通りです。

1. シリアルポートを通じて<STX>999999<ETX>を送信します。これでスキャナはシリアル・プログラム・モードになります。スキャンングは一時停止し、スキャナは ACK (06 Hex) と応答します。
2. シリアルポートを通じて<STX>999998<ETX>を送信します。これは MetroSelect ガイドにある「デフォルト」バーコードです。スキャナは ACK (06 Hex) と応答します。
3. シリアルポートを通じて<STX>999999<ETX>を送信します。これでスキャナはプログラムモードから出て新しい設定を保存します。スキャナはブザーを 3 回鳴らし、ACK (06 Hex) を送信します。

スキャナがコマンドを認識できないときは常時 NAK (15 Hex) と応答します。シリアル・プログラム・モードの詳細は、スキャナの設定およびユーザーガイドをご覧ください。



## 各国事业拠点

### The Americas (TA)

**USA**  
Tel: 800.436.3876  
(Customer Service)  
866.460.8033  
(Customer Support)  
888.633.3762  
(Technical Support)  
Fax: 856.228.6673  
(Sales)  
856.228.1879  
(Marketing)  
856.228.0653  
(Legal/Finance)

### Brazil

Tel: 55.11.5185.8222  
Fax: 55.11.5185.8225  
Email:  
[info@br.metrologic.com](mailto:info@br.metrologic.com)

### Mexico

Tel: 55.5365.6247  
Fax: 55.5362.2544  
Email:  
[info@mx.metrologic.com](mailto:info@mx.metrologic.com)

### North America

Tel: 856.537.6400  
866.460.8033  
(Customer Service)  
888.633.3762  
(Technical Support)  
Fax: 856.537.6474  
Email:  
[info@us.metrologic.com](mailto:info@us.metrologic.com)

### South America

(Outside Brazil)  
Tel: 55.11.5182.7273  
Fax: 55.11.5182.7198  
Email:  
[info@sa.metrologic.com](mailto:info@sa.metrologic.com)

### Omniplanar, Inc.

Tel: 856.374.5550  
Fax: 856.374.5576  
Email:  
[info@omniplanar.com](mailto:info@omniplanar.com)

### NOVODisplay

Tel: 856.537.6139  
Fax: 856.537.6116  
Email:  
[info@NOVODisplay.com](mailto:info@NOVODisplay.com)

### Europe, Middle East, and Africa

**France**  
Tel: +33 (0) 1 48.63.78.78  
Fax: +33 (0) 1  
Email:  
[info@fr.metrologic.com](mailto:info@fr.metrologic.com)

### Germany

Tel: 49-89-89019-0  
Fax: 49-89-89019-200  
Email:  
[info@de.metrologic.com](mailto:info@de.metrologic.com)

### Italy

Tel: +39 0 51 6511978  
Fax: +39 0 51 6521337  
Email:  
[info@it.metrologic.com](mailto:info@it.metrologic.com)

### Poland

Tel: +48 (22) 545 04 30  
Fax: +48 (22) 545 04 31  
Email:  
[info@pl.metrologic.com](mailto:info@pl.metrologic.com)

### Russia

Tel: +7 (495) 737 7273  
Fax: +7 (495) 737 7271  
Email:  
[info@ru.metrologic.com](mailto:info@ru.metrologic.com)

### Spain

Tel: +34 913 272 400  
Fax: +34 913 273 829  
Email:  
[info@es.metrologic.com](mailto:info@es.metrologic.com)

### United Kingdom

Tel: +44 (0) 1256 365900  
Fax: +44 (0) 1256 365955  
Email:  
[info@uk.metrologic.com](mailto:info@uk.metrologic.com)

### Asia Pacific Australia

Tel: 1 800 99 88 38  
Fax: +61 2 8916-6471  
Email:  
[info@au.metrologic.com](mailto:info@au.metrologic.com)

### China

Tel: 86-21-58356616  
86-21-58358830  
Fax: 86-21-58358873  
Email:  
[info@cn.metrologic.com](mailto:info@cn.metrologic.com)

### Suzhou Sales Office

Tel: 86-512-67622550  
Fax: 86-512-67622560  
Email:  
[info@cn.metrologic.com](mailto:info@cn.metrologic.com)

### Guangzhou Sales Office

Tel: 86-20-38823476  
Fax: 86-20-38823477  
Email:  
[info@cn.metrologic.com](mailto:info@cn.metrologic.com)

### Beijing Sales Office

Tel: 010-  
Fax: 010-  
Email:  
[info@cn.metrologic.com](mailto:info@cn.metrologic.com)

---

**Chengdu Sales Office**

Tel: 028-66135066/86786348

Fax: 028-86787061

Email:

[info@cn.metrologic.com](mailto:info@cn.metrologic.com)**Hong Kong**

Tel: 852-2331-9133

Fax: 852-2511-3557

**India**

Tel: +91 80 4125 6718

Fax: +91 80 4125 6719

Email:

[info@in.metrologic.com](mailto:info@in.metrologic.com)**日本**

〒105-0022

東京都港区海岸 1-16-1

ニューピア竹芝サウスタワー

20階

Tel: 81-3-6730-7344(代)

Fax: 81-3-6730-7222

**Korea**

Tel: (82) 2-6205-5379

Fax: (82)-2-3444-3980

Email:

[info@kr.metrologic.com](mailto:info@kr.metrologic.com)**Singapore**

Tel: (65) 6842-7155

Fax: (65) 6842-7166

Email:

[info@sg.metrologic.com](mailto:info@sg.metrologic.com)**Thailand**

Tel: +662-610-3787

Fax: +662-610-3601

Email:

[info@th.metrologic.com](mailto:info@th.metrologic.com)



Honeywell Scanning & Mobility  
90 Coles Road  
Blackwood, NJ 08012-4683

00-02544 Rev J  
June 2009  
Printed in China

